羽咋駅周辺整備基本構想

平成31年3月

羽　咋　市

目　次

第１章　本構想の位置づけ …… 1

１－１　構想策定の背景と目的 …… 1
１－２　構想のイメージと周辺都市機能 …… 3
１－３　構想の位置づけ …… 4

第２章　羽咋駅周辺の現況 …… 5

２－１　人口、世帯数の状況 …… 5
２－２　土地利用の状況 …… 8
２－３　都市施設の状況 …… 12
２－４　自然・文化的特性 …… 17
２－５　羽咋駅周辺の整備進捗状況 …… 18
２－６　既定計画 …… 19

第３章　上位計画との連携 …… 22

３－１　第５次羽咋市総合計画 …… 22
３－２　がんばる羽咋創生総合戦略 …… 23
３－３　羽咋市都市計画マスタープラン …… 25
３－４　羽咋市公共施設等総合管理計画 …… 26

第４章　羽咋駅周辺整備に対する住民等の意向 …… 27

４－１　アンケート調査 …… 27
４－２　住民意見交換会 …… 32
４－３　住民説明会 …… 33
４－４　パブリックコメント …… 34

第５章　地区の課題 …… 36

５－１　課題抽出の流れ …… 36
５－２　羽咋駅周辺地区の課題 …… 37

第６章　基本構想・整備方針 …… 38

６－１　基本コンセプト及び方針 …… 38
６－２　整備方針 …… 42
６－３　マルシェ跡地利活用方策 …… 46

第７章　羽咋駅周辺整備の実現に向けて ･････････････････････････ 48

７－１　整備スケジュール ･･･ 48
７－２　構想の具体化に向けての方向性 ･････････････････････････････ 49
７－３　駅周辺整備を推進するための課題 ･･････････････････････････ 50
７－４　地域活性化による成功事例 ･･････････････････････････････････ 51

第１章　本構想の位置づけ

１－１　構想策定の背景と目的

（１）　構想策定の背景

少子高齢化の進展に伴い、本市の人口は年々減少を続けており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、今後も減少の一途をたどることが予想されている。また、少子高齢化・人口減少の影響を受けて、羽咋駅周辺の中心市街地では、空き家・空き店舗が増加している現状であり、中心市街地における賑わい喪失につながっている。

また、都市化や核家族化、就労形態の変化などにより、人々のライフスタイルが多様化するとともに、価値観も物の豊かさよりも心の豊かさを重視する方向へ変化している。多様化する市民のニーズに応えるためには「新しい公共」の取り組みにより多様な機能を持った地域社会を形成するとともに、地域固有の資源を活かした個性あるまちづくりが必要である。

一方、東日本大震災の発生以降、社会情勢の変化により安全・安心な社会づくりへの対応が求められている。

こうした中、本市では、交流人口の拡大を図るため、道路の玄関口であるのと里山海道千里浜 IC 周辺に「道の駅のと千里浜」を整備し、また、鉄道の玄関口であり中心市街地が目前に広がる羽咋駅では、周辺の活性化や住環境の向上を図ることを目的に、駅前広場整備や駅東宅地分譲整備を進めてきており、都市機能の集約による持続可能なまちづくりに取り組んでいる状況である。

羽咋駅西広場

道の駅のと千里浜
（H27.7 オープン）

（２） 構想策定の目的

ＪＲ七尾線羽咋駅周辺は、賑わいと魅力あふれる羽咋市の顔として、古くから商工業・居住・行政といった都市機能が集積し、本市の中心として栄えてきた地区である。今後も人口減少等が予想される中、それに対応できる持続可能な都市形成を推進するためには、来訪者や市民が中心市街地に足を運ぶ施策や必要な都市機能を集積するなど、羽咋駅周辺への賑わい創出の実現が急務となっている。

本構想では、駅西側に隣接する大型商業施設跡地の利活用と、隣接する都市計画道路川原町線および長者川改修について検討し、羽咋駅周辺のまちづくりの方向性や整備方針を定めることを目的とする。

時代の潮流　～人口減少のなか、地方創生の時代へ～

- **人口減少の抑制・少子高齢化社会の対応**
- **安全・安心な社会づくりへの対応**
- **「新しい公共」による市民ニーズへの対応**
- **交流人口の拡大への対応**
- **持続可能なまちづくり**
- **都市機能の集積**
- **ライフスタイルの多様化**

＋

羽咋駅周辺での取り組みの経緯

- **駅広場整備や駅東宅地分譲整備**
  - → 平成 26 年～29 年　広場整備
  - → 平成 26 年・29 年　駅東分譲地整備
- **ショッピングセンター「マルシェ」跡地の取得**
  - → 利活用検討が急務

羽咋駅周辺整備基本構想策定

今後の羽咋駅周辺に求められる機能を把握、その整備イメージを提言

1－2　構想のイメージと周辺都市機能

本基本構想のイメージと周辺都市機能は、以下の通りである。

（１）マルシェ跡地

１）跡地の有効活用

２）周辺土地の有効活用

（２）長者川河川改修

１）河川機能の向上

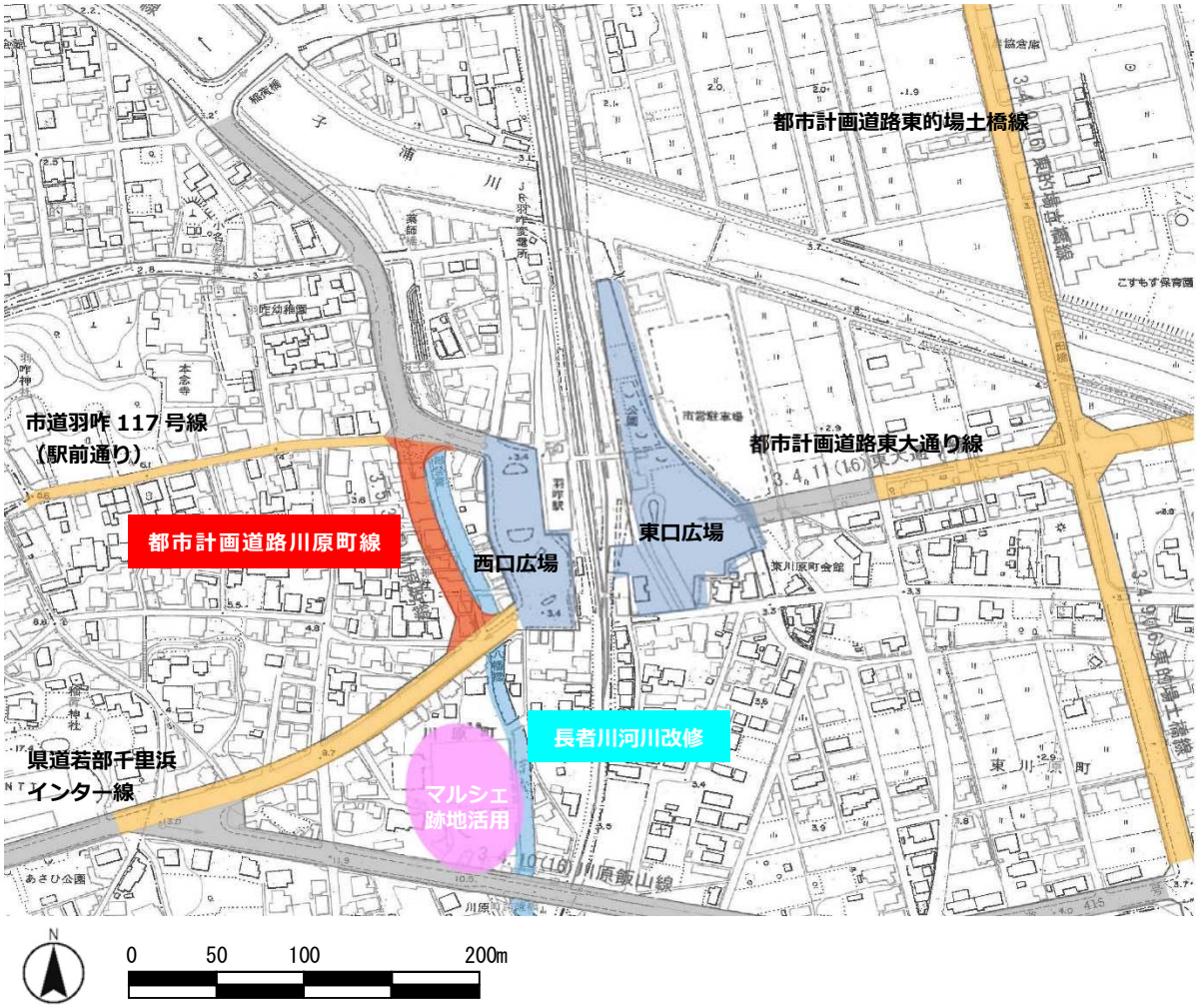
２）親水空間の創出

（３）都市計画道路川原町線

１）住環境の向上

２）沿道土地の有効活用

【構想のイメージと周辺都市機能】

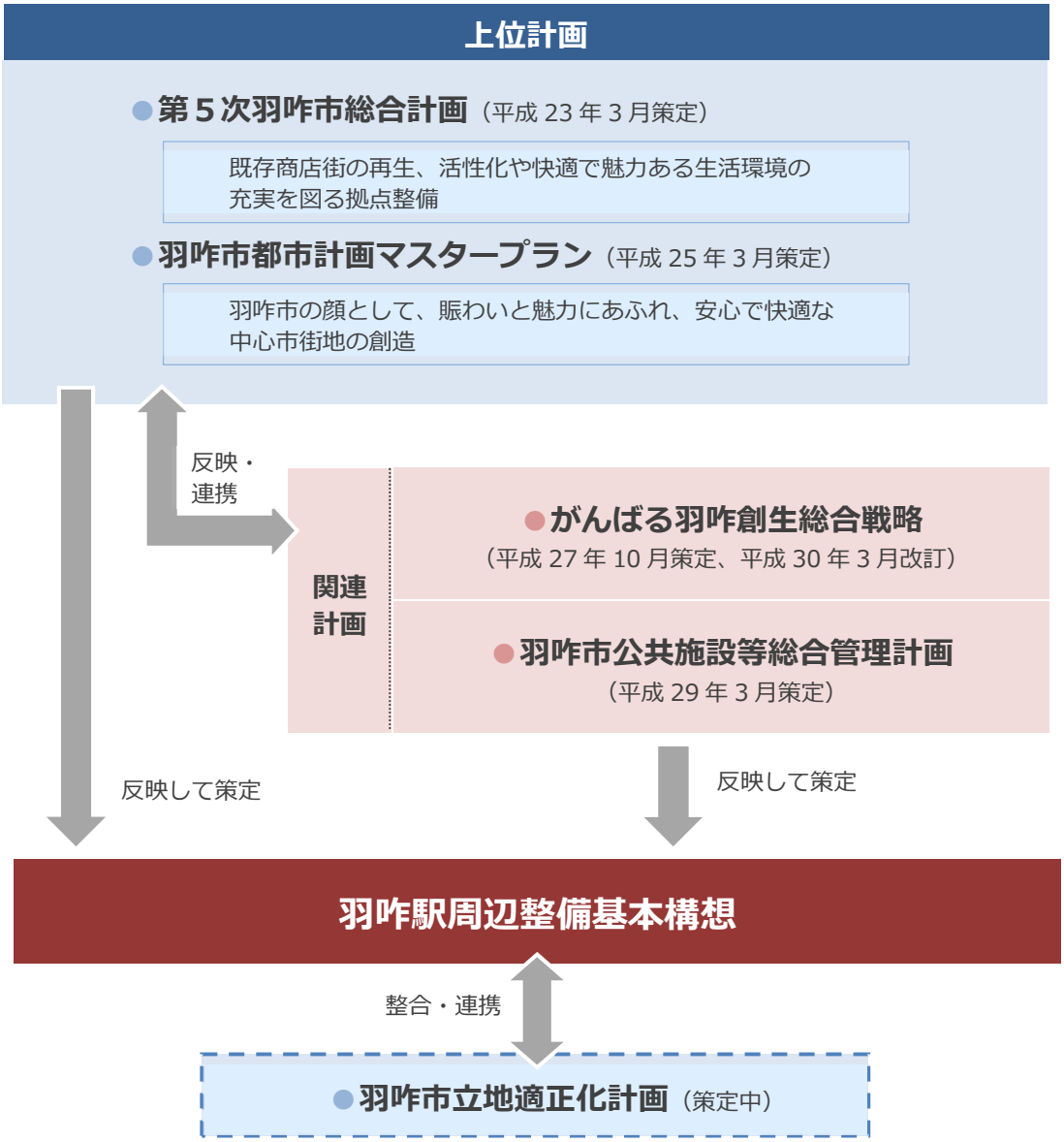


1－3　構想の位置づけ

本構想は、「第５次羽咋市総合計画（平成 23 年 3 月）」「羽咋市都市計画マスタープラン（平成 25 年 3 月）」を上位計画としており、「第５次羽咋市総合計画（平成 23 年 3 月）」では、既存商店街の再生と、活性化や快適で魅力ある生活環境の充実を図る拠点整備と位置付けられ、「羽咋市都市計画マスタープラン（平成 25 年 3 月）」では、羽咋市の顔として、賑わいと魅力にあふれ、安心で快適な中心市街地の創造と位置付けられている。

また、「がんばる羽咋創生総合戦略（平成 27 年 10 月）」「羽咋市公共施設等総合管理計画（平成 29 年 3 月）」が関連計画として位置付けられ、「がんばる羽咋創生総合戦略（改訂版：平成 30 年 3 月）」では、羽咋駅周辺整備によるまちなかの賑わい創出が位置付けられており、「羽咋市公共施設等総合管理計画（平成 29 年 3 月）」では、公共施設の維持管理・更新等についての方針が記載されている。

【本構想の位置づけ】



第2章　羽咋駅周辺の現況

2－1　人口、世帯数の状況

（1）　羽咋市の人口、世帯数

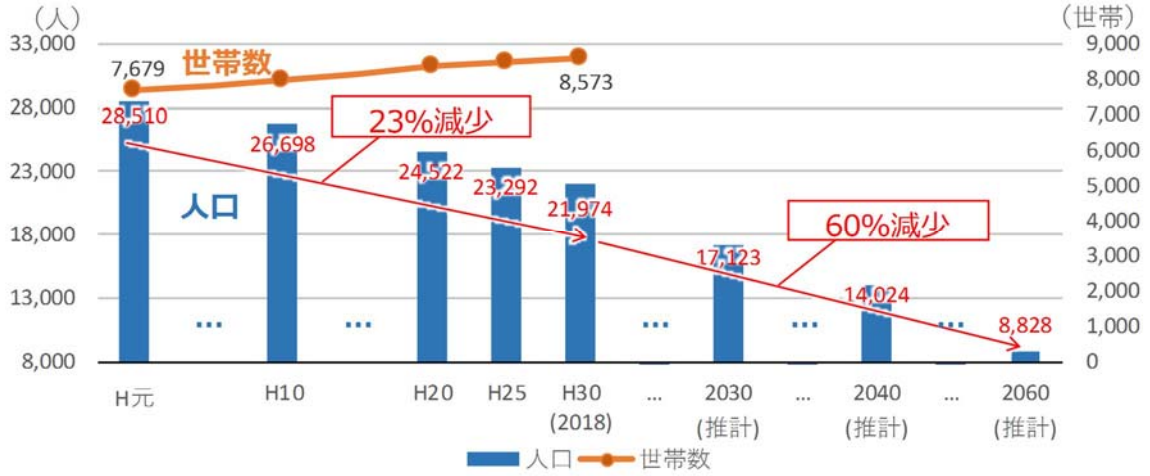
羽咋市の現在の人口は、約 22,000 人であり、平成元年（約 28,000 人）から約 6,000 人（22.9%）減少している。５年前からは約 1,300 人（5.7%）減少しており、近年では以前と比べ減少数が大きくなっている状況である。

一方、世帯数は増加傾向であり、単独世帯や核家族世帯が増加し続けている傾向である。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、今後も人口の減少は大きくなる一方であり、2060 年には約 8,800 人と、現在と比べ 13,200 人近く（59.8%）減少することが予想されている。

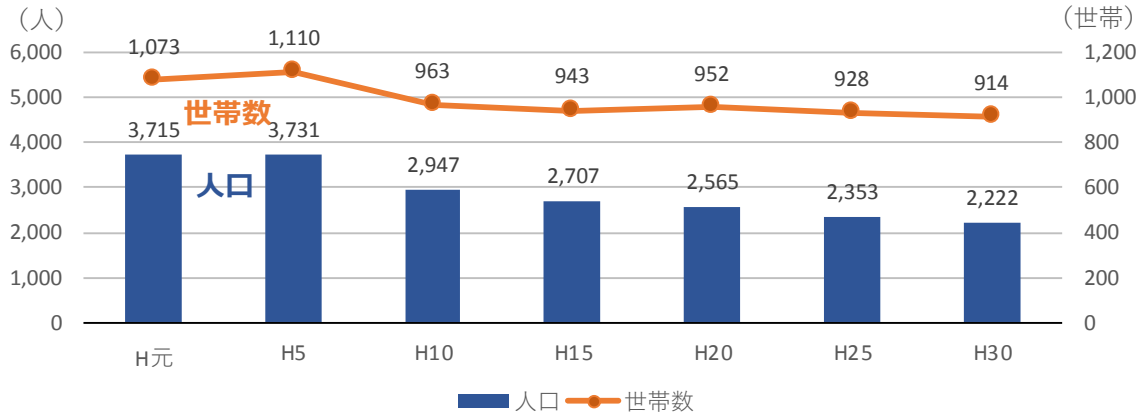
市街地においても、人口は平成５年をピークに減少しており、近年では鈍化しているものの減少傾向である。また、平成元年からの 30 年間で 40.2%減少しており、市全体より減少が顕著である。

【羽咋市の人口・世帯数】



出典：羽咋市住民基本台帳、羽咋市人口ビジョン（H27 年 10 月）

【市街地の人口・世帯数】



出典：羽咋市住民基本台帳

参考　能登地方と羽咋市の将来人口推計

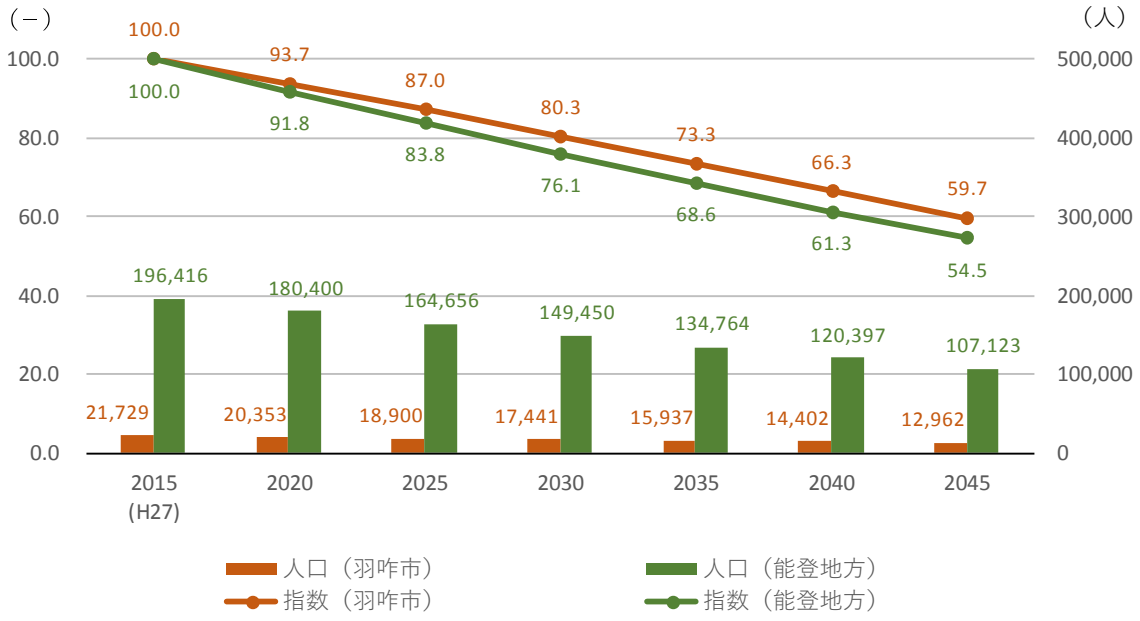
能登地方の９市町の平成27年の総人口を100としたとき、各市町の総人口の指数をみると、羽咋市は2045年時点で59.7であり、能登地方の９市町中３番目の高さである。能登地方全体が深刻な人口減少にある中で比較的人口減少の割合が小さいことが伺える。

平成27（2015）年の総人口を100としたときの総人口の指数

市町	2015 (H27)	2020	2025	2030	2035	2040	2045
七尾市	100.0	94.7	89.1	83.4	77.7	71.8	66.1
中能登町	100.0	94.2	88.0	81.5	75.2	68.9	63.0
羽咋市	**100.0**	**93.7**	**87.0**	**80.3**	**73.3**	**66.3**	**59.7**
志賀町	100.0	91.6	83.2	75.0	66.8	58.8	51.5
宝達志水町	100.0	91.4	82.6	74.3	66.2	58.2	50.8
輪島市	100.0	88.6	78.4	69.0	60.5	52.3	45.0
穴水町	100.0	88.8	77.9	67.9	58.7	49.9	41.8
珠洲市	100.0	88.2	77.5	67.5	57.9	49.3	41.8
能登町	100.0	88.5	77.6	67.4	58.0	49.2	41.3
能登地方	**100.0**	**91.8**	**83.8**	**76.1**	**68.6**	**61.3**	**54.5**

出典：国立社会保障・人口問題研究所

【能登地方と羽咋市の人口推計】



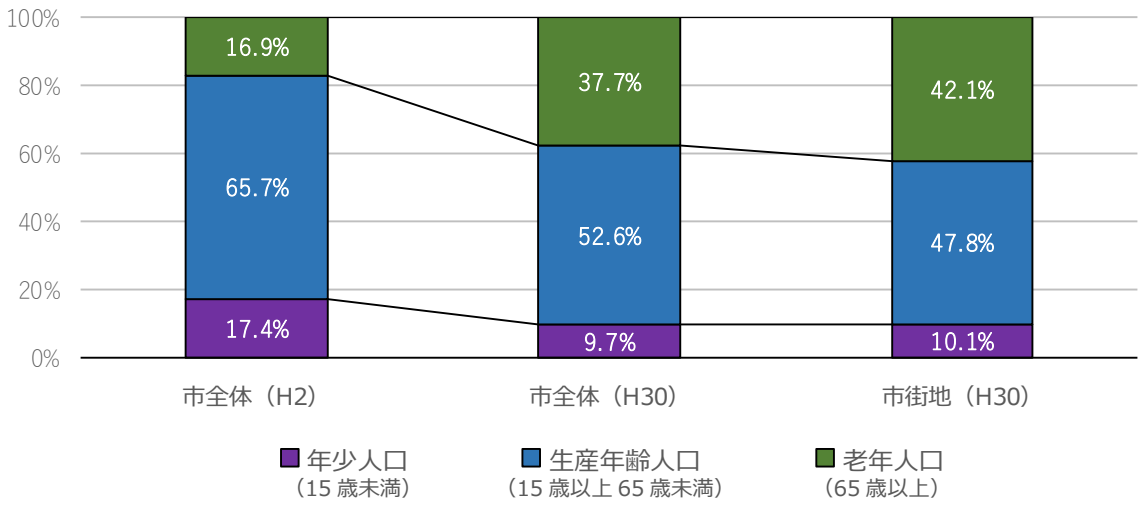
出典：国立社会保障・人口問題研究所　「日本の地域別将来人口」（2018年推計）

（２） 年齢３区分別人口

羽咋市の老年人口割合は総人口の 37.7%と、平成２年（16.9%）から 20.8 ポイント上昇している一方で、年少人口は総人口の 9.7%と、平成２年（17.4%）から 7.7 ポイント下降しており、少子高齢化が進行している状況である。

市街地での老年人口割合は 42.1%と、市街地では市全体よりも高齢化が顕著である。

【年齢３区分別人口】



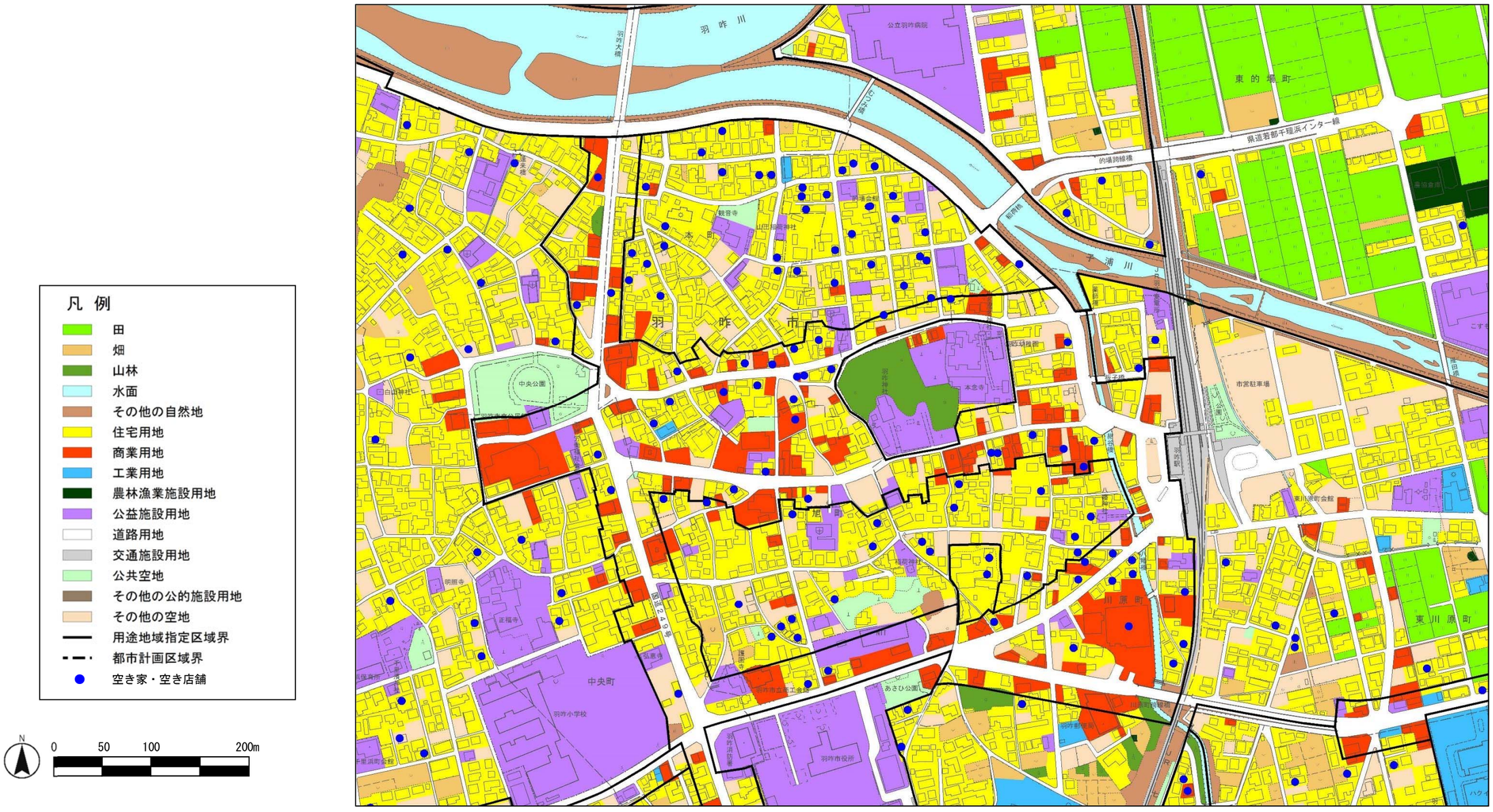
出典：H2 国勢調査、H30 羽咋市住民基本台帳

2－2 土地利用の状況

（1） 土地利用の状況

羽咋駅周辺の土地利用は、店舗・事務所・倉庫等の商業用地と住宅用地が混在している既成市街地である。羽咋駅西側の既成市街地を中心に空き家や空地などの低未利用地が多くなっている。また、マルシェ跡地は駅前の一等地に立地していながら長年未利用であり、建物が廃墟化するなど駅前のイメージダウンとなっている。

【土地利用現況図】

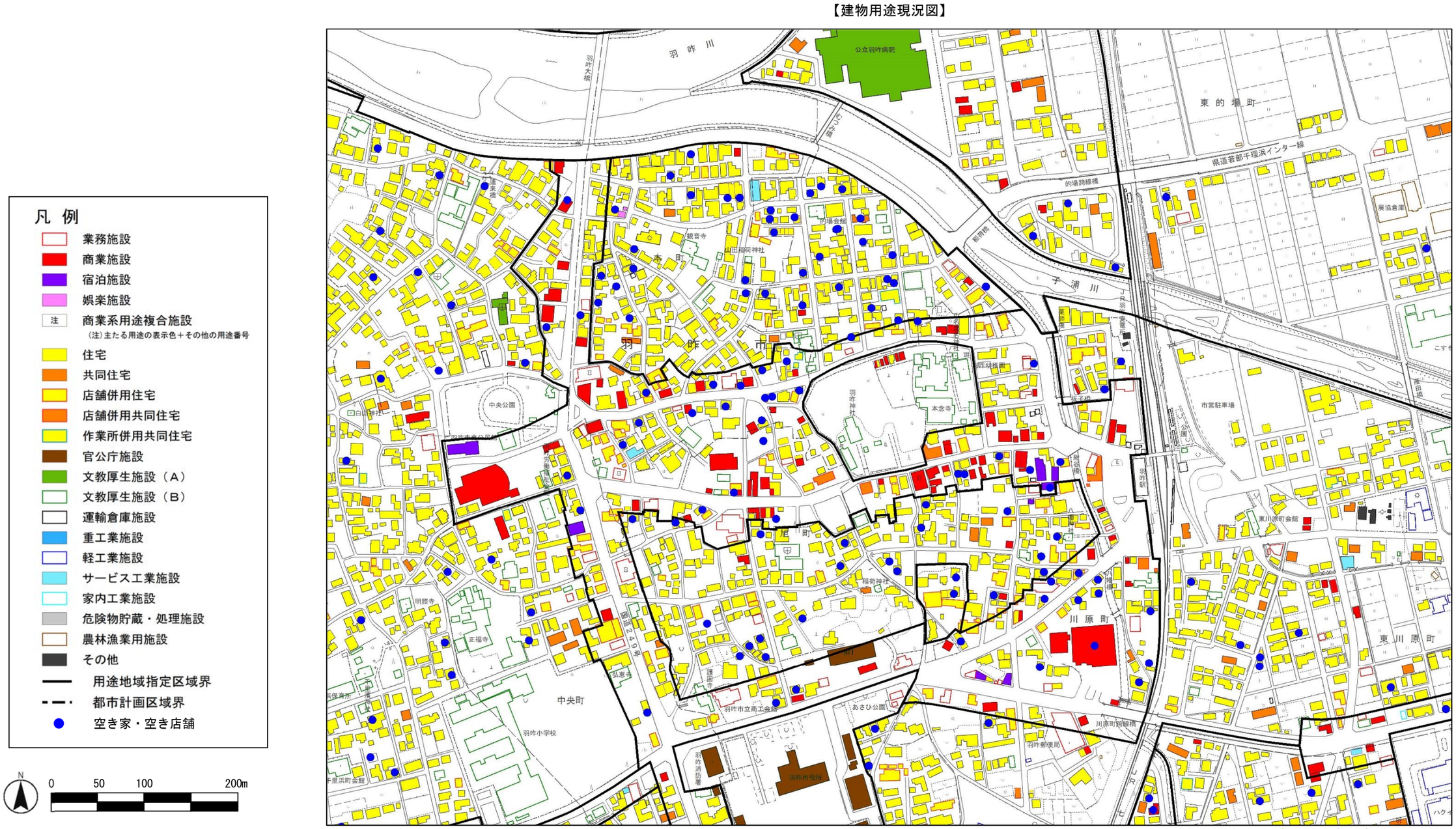


出典：平成 30 年度　羽咋市都市計画基礎調査

（２） 建物用途の状況

羽咋駅周辺の建物用途は、住宅が最も多く、共同住宅、小規模な商業施設が混在している既成市街地であり、店舗併用住宅、店舗併用共同住宅も立地している。

【建物用途現況図】

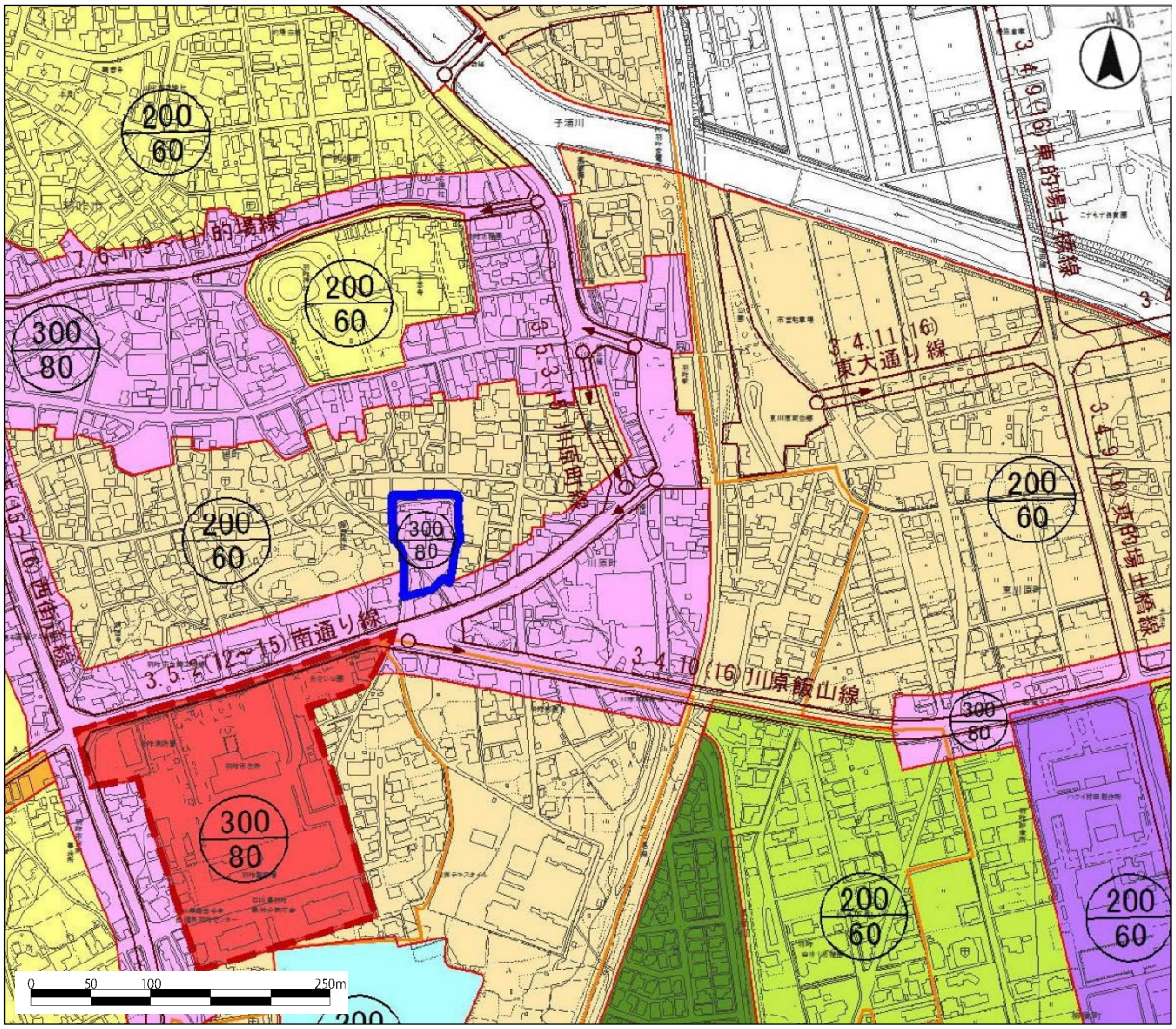


出典：平成 30 年度　羽咋市都市計画基礎調査

（３） 用途地域指定

羽咋駅の西側周辺は、都市計画道路沿線を中心に近隣商業地域、その他既成市街地では第２種住居地域に指定されている。

【用途地域指定図】



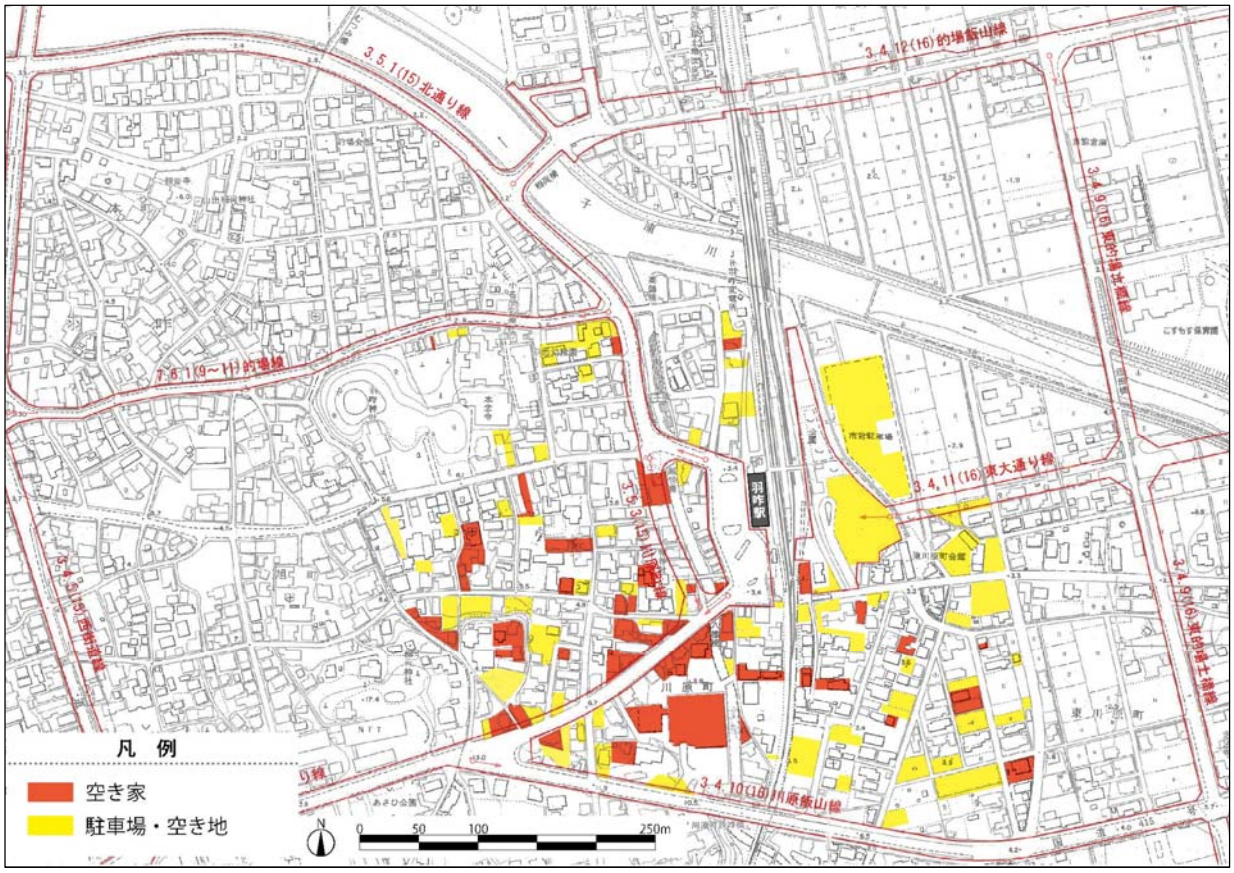
凡例		
特別用途地区（大規模集客施設制限地区）		
都市計画区域		
都市計画道路		
都市計画公園		
ＤＩＤ地区（Ｈ．２２）		
防火地域		
特別用途地区		
その他の都市施設		
臨港地区		
用途地域	建ぺい率(%)	容積率(%)
第１種低層住居専用地域	60	100
第２種低層住居専用地域	60	100
第１種中高層住居専用地域	60	200
第１種住居地域	60	200
第２種住居地域	60	200
準住居地域	60	200
近隣商業地域	80	300
商業地域	80	300
準工業地域	60	200
工業地域	60	200
その他の都市計画区域（白地地域）	60	200
滝町・一ノ宮町の一部	70	200

出典：羽咋市都市計画図

（４） 空き家・空き地等の状況

羽咋駅周辺では、低未利用地が点在している状況である。

【空き家・空き地等分布図】



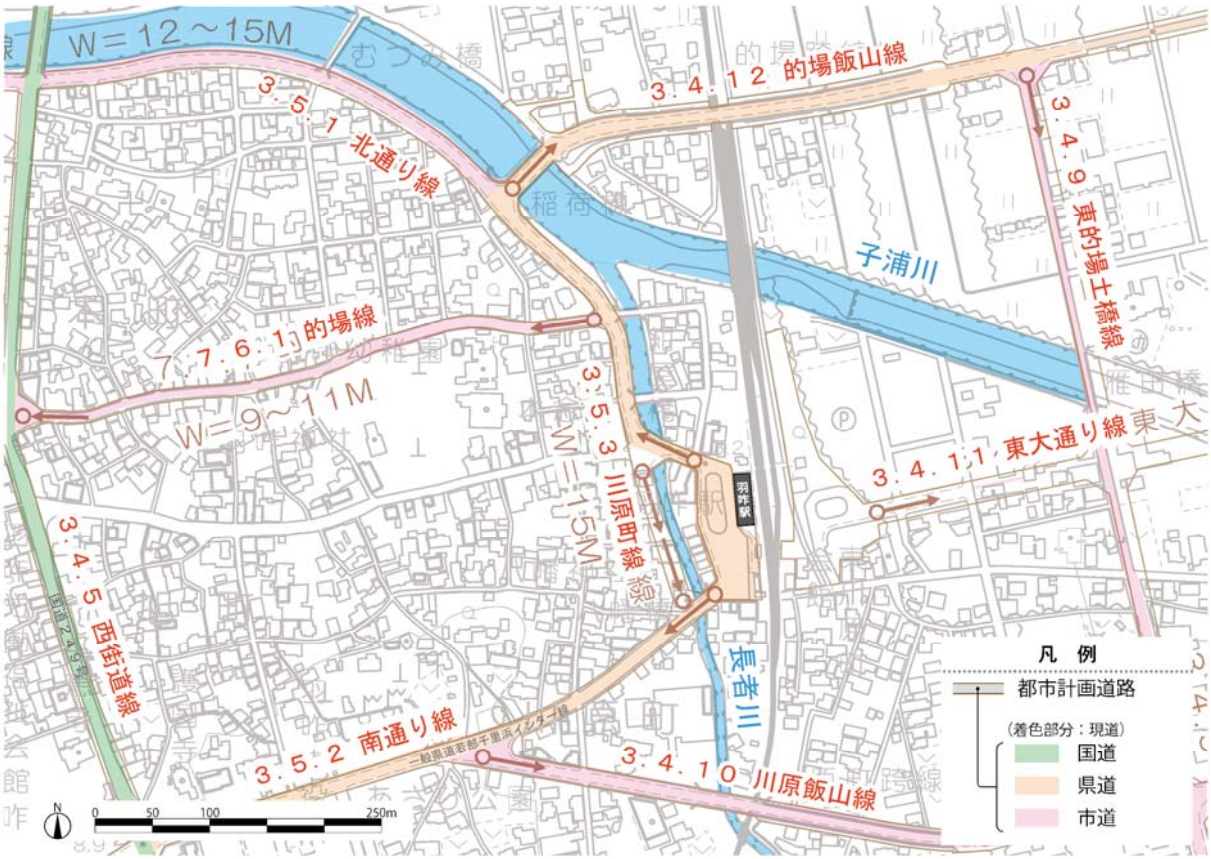
出典：羽咋市地域整備課

2－3 都市施設の状況

（1） 道路

羽咋駅西口には、都市計画道路南通り線（一般県道若部千里浜インター線）がある他、西側の既成市街地には、都市計画道路西街道線（国道 249 号）が南北に縦貫しているが、同既成市街地では、すれ違いが困難な狭い道路が存在している。また、都市計画道路北通り線、的場線が整備されているが、南通り線は一部未整備区間があるが概成済みであり、長者川沿いの都市計画道路川原町線は未整備である。

【羽咋駅周辺道路網図】



出典：羽咋市都市計画図

構想対象範囲内における国道・県道・都市計画道路

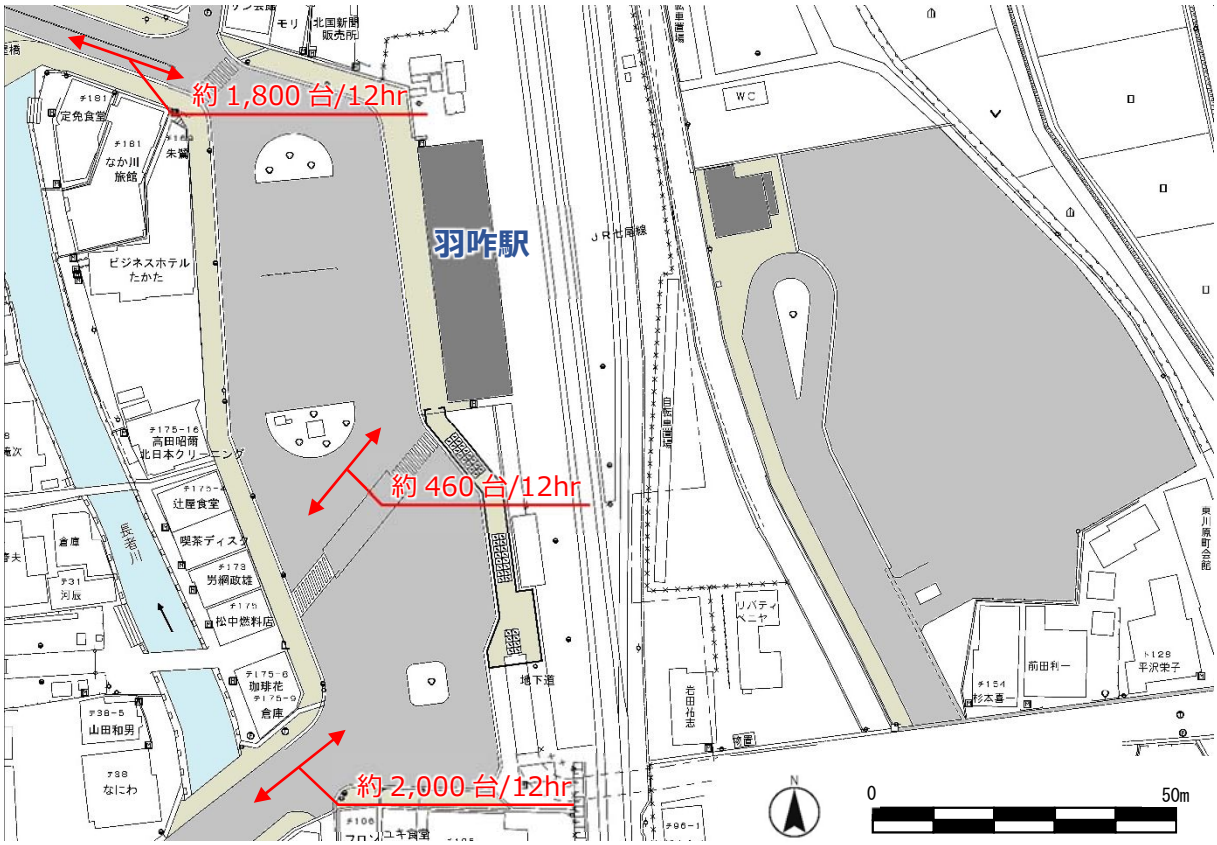
番号	都市計画道路名	計画幅員	整備状況
3.4.5	西街道線（国道 249 号）	15m～16m	概成済・未整備
3.4.9	東的場土橋線	16m	改良済・概成済・未整備
3.4.10	川原飯山線	12～16m	改良済・概成済・未整備
3.4.11	東大通り線	16m～18m	改良済・未整備
3.4.12	的場飯山線	16m	改良済・概成済・未整備
3.5.1	北通り線	12～15m	改良済
3.5.2	南通り線	12～15m	改良済・概成済
3.5.3	川原町線	15m	未整備
7.6.1	的場線	9～11m	改良済

※ 概成済：計画された道路幅員のうち 2/3 以上の幅員が確保され、改良済と同程度の機能を持つ状況

（２） 道路交通量

羽咋駅西口の駅前通りの交通量は、北側の交通量が約 1,800 台/12hr、南側（南通り線）の交通量が約 2,000 台/12hr である。

【羽咋駅西口の交通量（平成 24 年）】



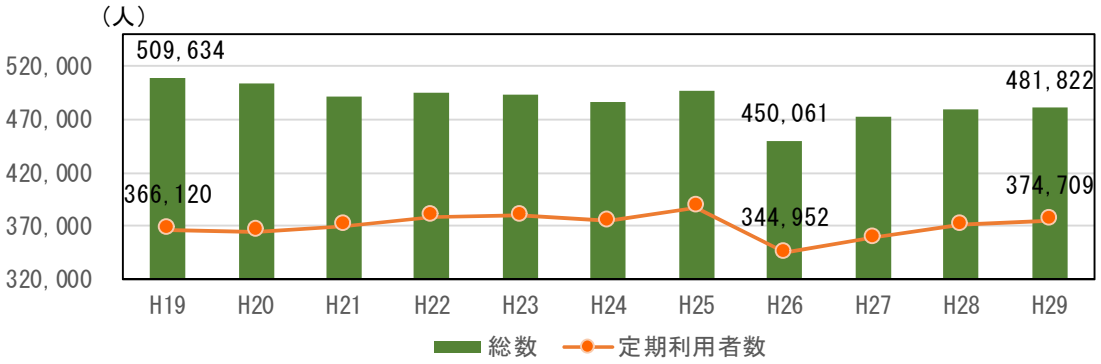
出典：平成 24 年度羽咋市都市計画道路網再編計画

（３） 交通

羽咋駅の鉄道利用者数は、平成 19 年度以降に年間 50 万人程度の利用者数で推移しており、平成 26 年度には一時的に落ち込んだものの、近年は増加傾向にある。全体利用者数は、平成 19 年度と比べ減少しているものの、定期利用者数では平成 19 年度よりも増加している状況である。

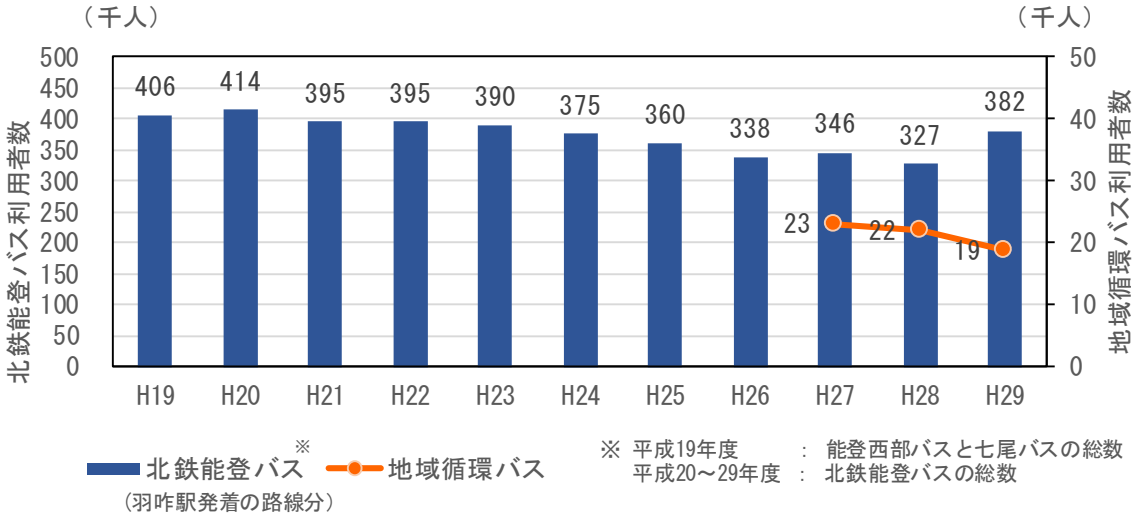
また、羽咋駅を発着する路線バス（北鉄能登バス、地域循環バス）の利用者数は、平成 19 年度以降減少傾向にある。

【羽咋駅　年間鉄道利用者数】



出典：羽咋市統計書

【羽咋駅　年間バス乗降客数】



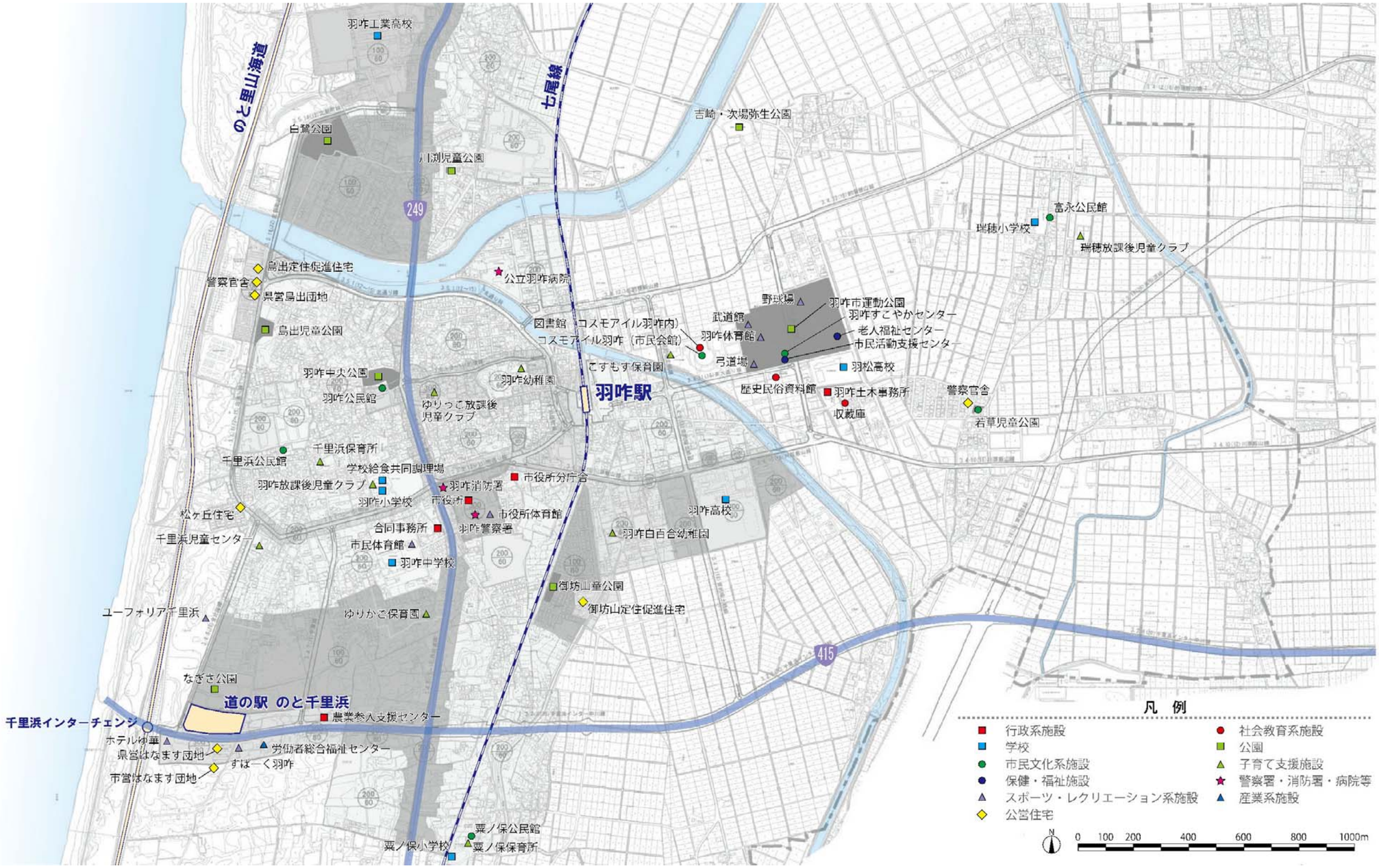
出典：羽咋市統計書、羽咋市健康福祉課

（４） 公園・河川・公共施設の状況

羽咋駅の西側には、市役所等の行政系施設がいくつか立地しているほか、羽咋小学校、羽咋中学校が立地している。また、羽咋駅の東側は、体育館や弓道場、羽咋市運動公園等のレクリエーション系施設、図書館やコスモアイル羽咋（市民会館）等の文化系施設が立地している。

河川は、南部方面から長者川と子浦川が合流し、二級河川の羽咋川へとつながっている。公園については羽咋駅周辺には立地しておらず、郊外の立地が多い。

【公共施設等の立地】

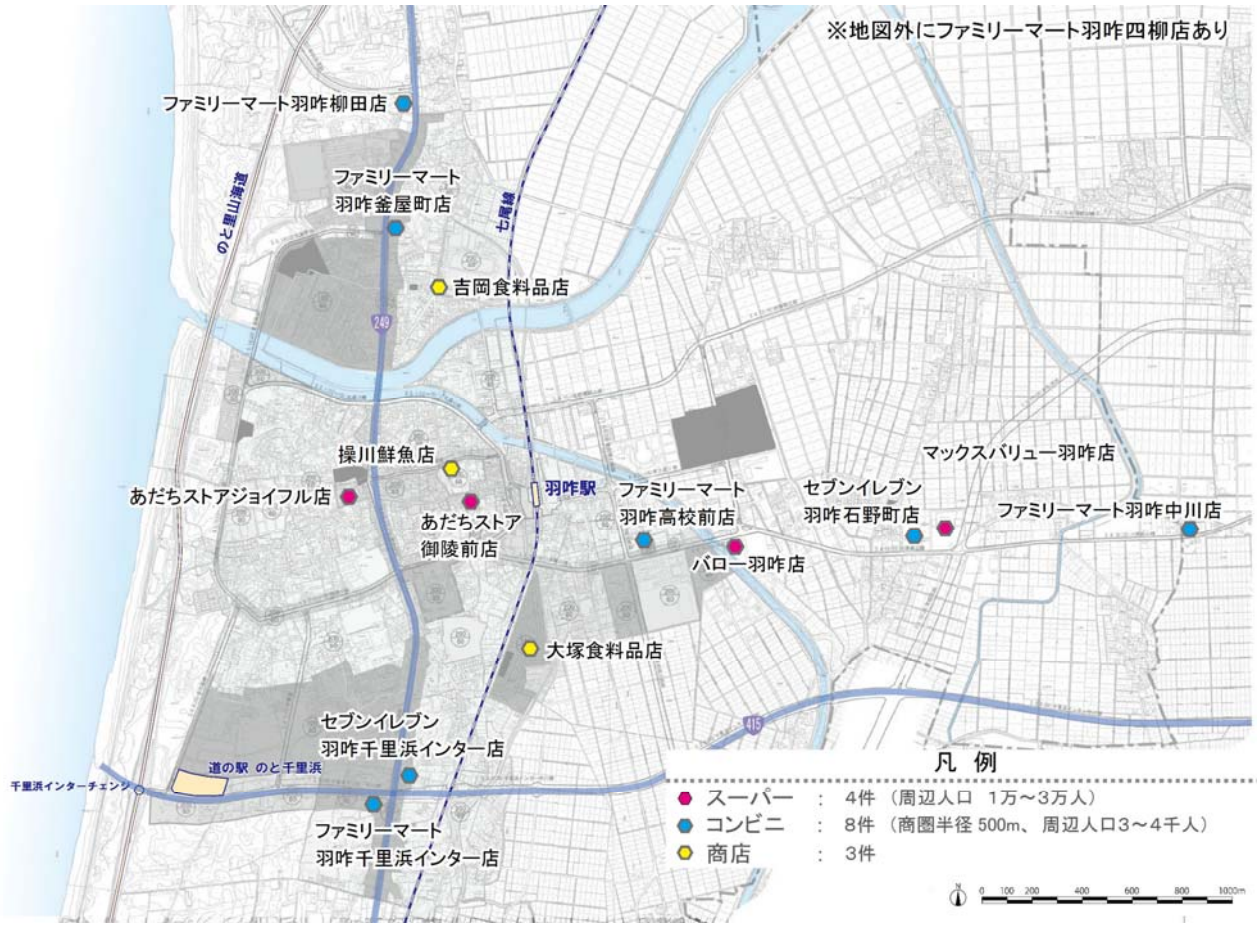


（５） 商業施設の状況

羽咋駅を中心とする半径概ね３km 以内の市域には、スーパーが４件、コンビニが８件存在する他、駅西側の既成市街地には商店が数件立地している状況である。現在の羽咋市の人口規模における適正スーパー数は 2.2 件、適正コンビニ数は 7.3 件であり、現在の店舗数は適正店舗数を大幅に超えている状況である。

今後人口が減少していくことが推計されており、適正スーパー数、コンビニ数ともに減少となることが予想され、現状の店舗数ではより供給過多な状況となることが想定される。

【主な商業施設（商店等）の立地】



羽咋市人口と市内適正商業施設数

年	2018 年	2030 年（推計）	2040 年（推計）
人口	21,974 人	17,123 人	14,024 人
適正スーパー数（１万人/件）	2.2 件	1.7 件	1.4 件
適正コンビニ数（３千人/件）	7.3 件	5.8 件	4.8 件

2－4　自然･文化的特性

羽咋駅周辺には、羽咋神社、本念寺など歴史的な寺社仏閣が存在し、長者川では、毎年９月には羽咋神社の秋季祭礼である川渡し神事が行われるなど、伝統文化が今なお受け継がれている。

川渡し神事

羽咋神社

川渡し神事　（羽咋神社～長者川～八幡神社）

毎年９月中旬ごろに行われる羽咋神社の秋季祭礼。羽咋神社の祭神・磐衝別命が八幡神社の女性の神様に会いに通ったという神話にちなみ、地域の若衆が神輿を御座舟に乗せ、長者川を上り、八幡神社まで渡御し、再び長者川を下り帰社する。

羽咋神社

当地の住民を苦しめる怪鳥を討ち、農業を振興し地域を開発したと伝えられる『磐衝衝別命（いわつきわけのみこと）』を主祭神として祀る神社。毎年、石衝別命の命日である９月 25 日に執り行われる唐戸山神事相撲は石川県の無形民俗文化財に指定されている。

本念寺

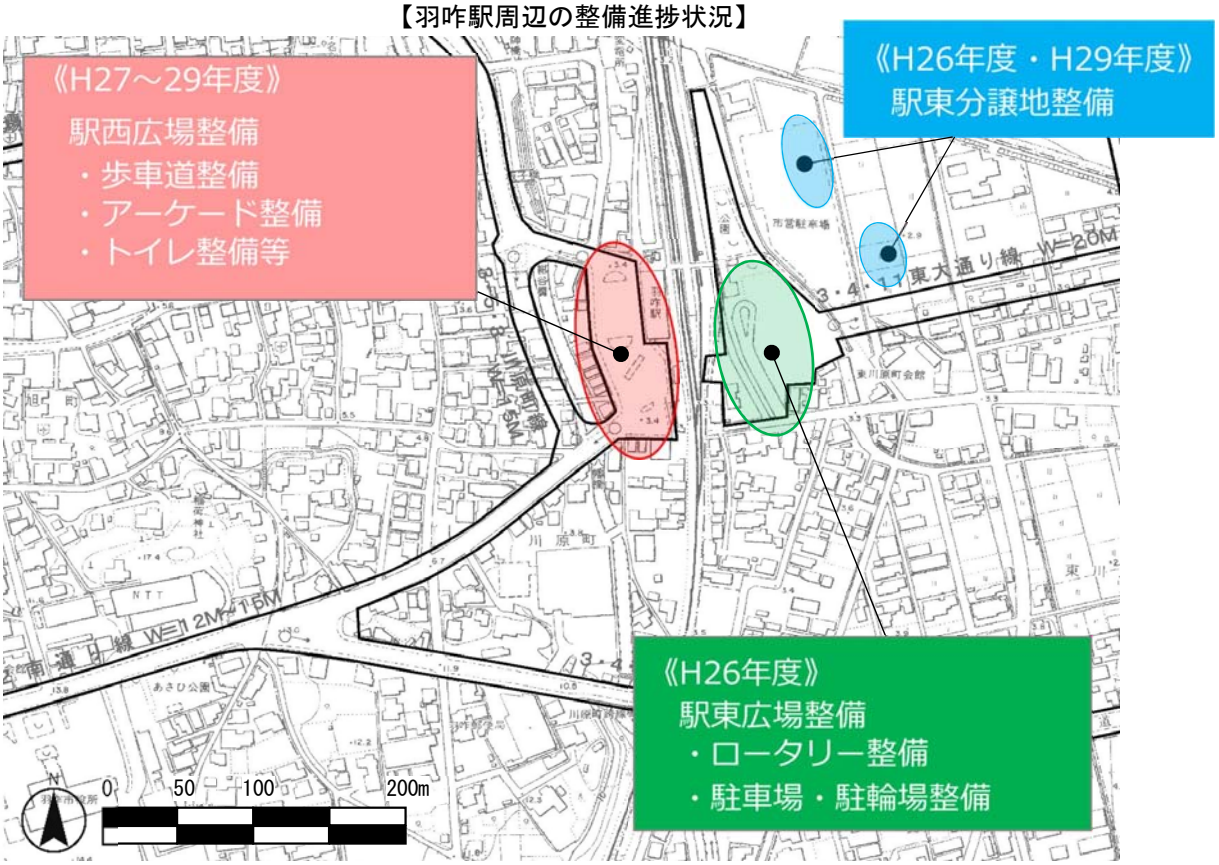
かつて隣接する羽咋神社の別当であった寺院。室町時代には一向一揆の重要拠点の一つとなったほか、羽咋神社と繋がりが深く、唐戸山神事相撲は江戸時代には本念寺の法要行事として行われ、神仏分離令後は再び、羽咋神社の例祭となり大関が本念寺の高張提灯を授与するなど神仏習合時代の名残が見られる。

2－5 羽咋駅周辺の整備進捗状況

羽咋駅は、市の玄関口の一つとして、近年駅西広場及び駅東広場の整備を行っており、駅機能・利便性が向上した。

また、羽咋駅東口では市で分譲地を整備しており、宅地化が進んでいる状況である。

【羽咋駅周辺の整備進捗状況】



アーケード整備

駅東分譲地

トイレ整備

ロータリー整備

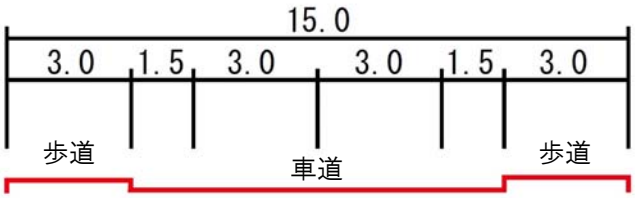
2－6 既定計画

（1）都市計画道路川原町線整備計画

都市計画道路川原町線は、羽咋駅西側の長者川に沿った延長 140m、幅員 15mの都市計画道路であり、中心市街地を取り巻く環状道路の一区間を形成する幹線道路である。

昭和 34 年の決定後、現在に至るまで全線未整備である。

【標準断面図】



計画変更の経緯

決定・変更年月日	内容
Ｓ３４．　３．２４	新規決定
Ｓ５２．　２．２５	名称変更（2.3.1 川原町線 → 3.5.3 川原町線）
Ｈ　２．　７．　６	拡幅および線形の変更（幅員 13m→15m）

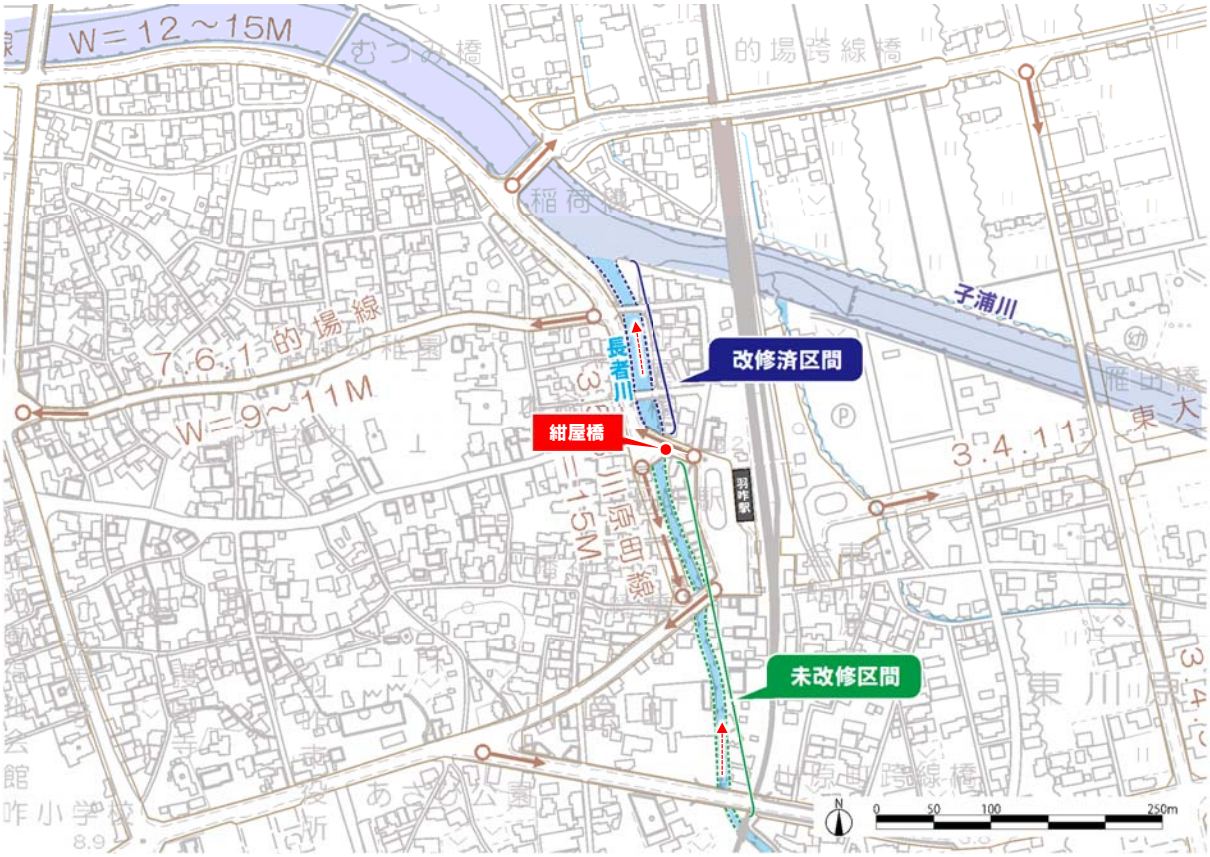
【位置図】

（２）長者川河川改修計画

長者川では、平成４年よりＪＲ七尾線より下流域の約 600m の区間で河川改修が計画され、下流側約 200m の区間が改修済であり、約 400m が未整備であったが、平成 10 年には事業が休止され、翌平成 11 年には中止された。

紺屋橋より上流側約 400m の区間では、以前未改修のままである。

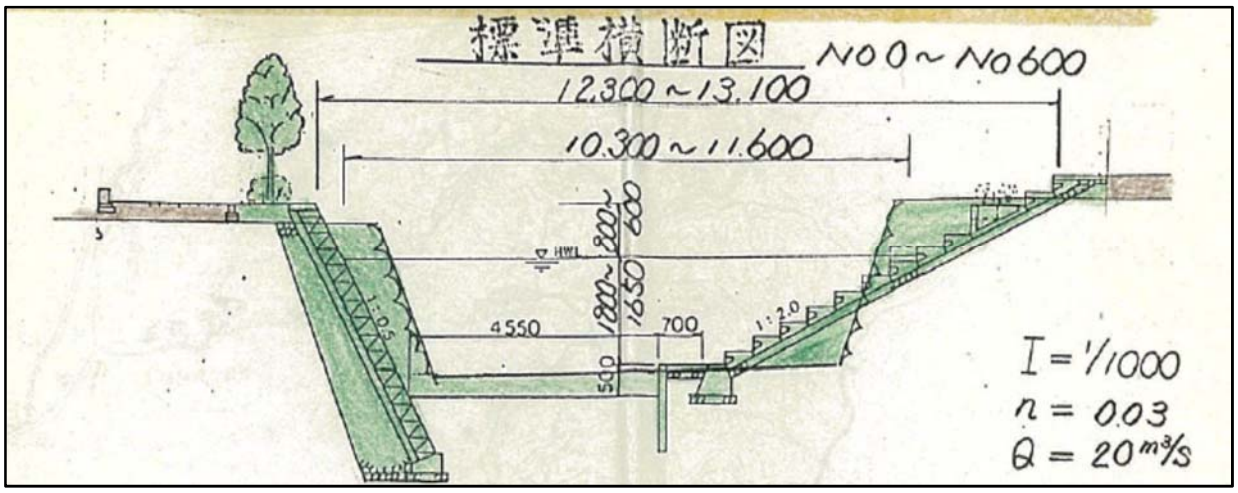
【改修計画位置図】



改修済区間の状況

未改修区間の状況

【標準断面図（平成４年当時計画）】



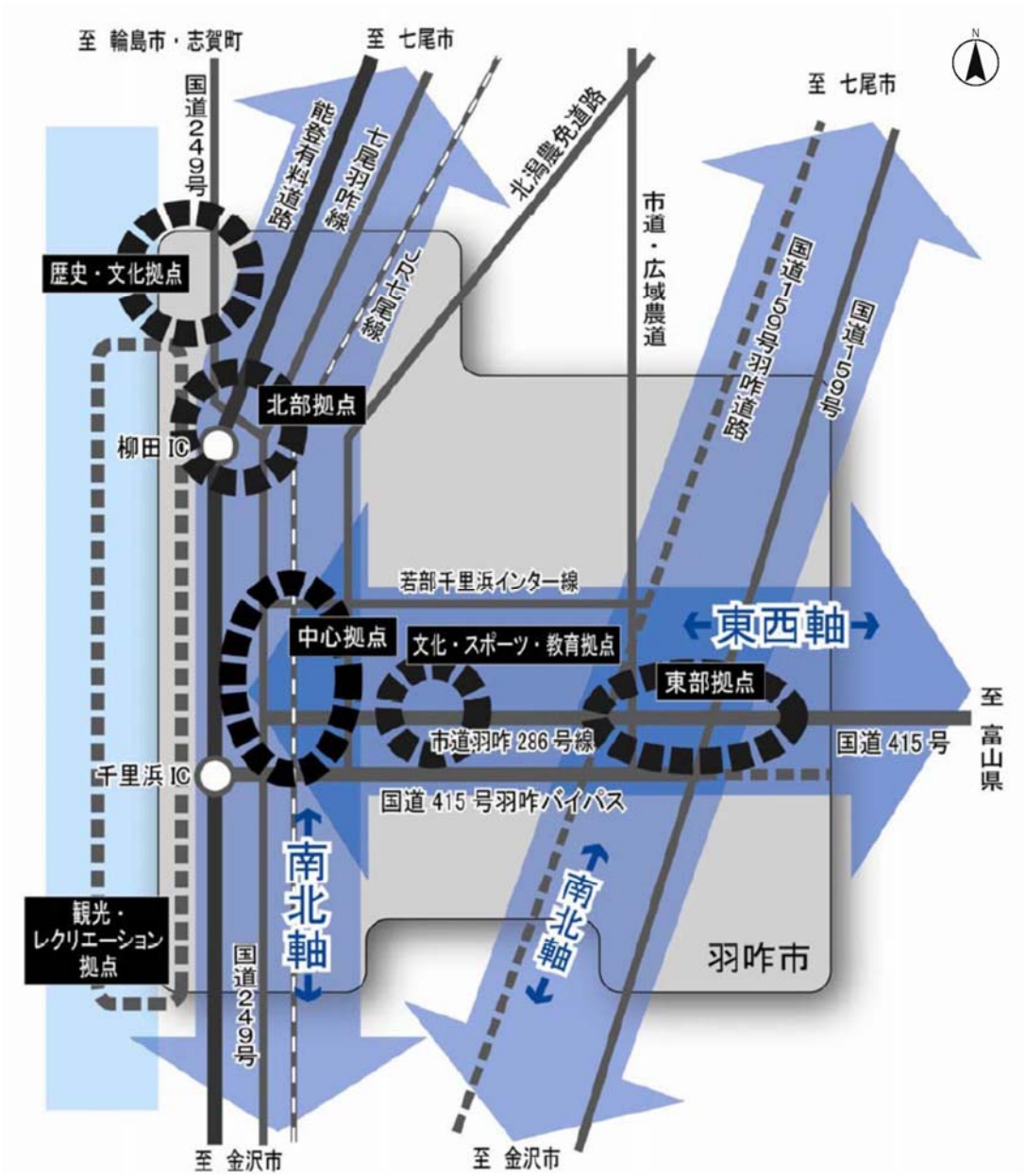
第3章　上位計画との連携

3－1　第5次羽咋市総合計画

平成 23 年３月に策定された第５次羽咋市総合計画（2011 年～2020 年）によれば、羽咋駅周辺は羽咋市の中心部であり、ＪＲ羽咋駅や商店街、その周辺には市街地が広がり、羽咋市の人・もの・情報が集積するエリア、既存商店街の再生と活性化や快適で魅力ある生活環境の充実を図る羽咋市の「顔」となる中心拠点として位置づけている。

また、駅東側のコスモアイル羽咋や羽咋すこやかセンター、羽咋市歴史民俗資料館、吉崎・次場弥生公園、羽咋運動公園、羽咋体育館、羽咋高校や羽松高校などの文化・スポーツ・教育施設が集中しているエリアは、市民の交流の場や人づくりの核となる拠点、また、災害時の避難場所として、文化・スポーツ・教育拠点に位置づけている。

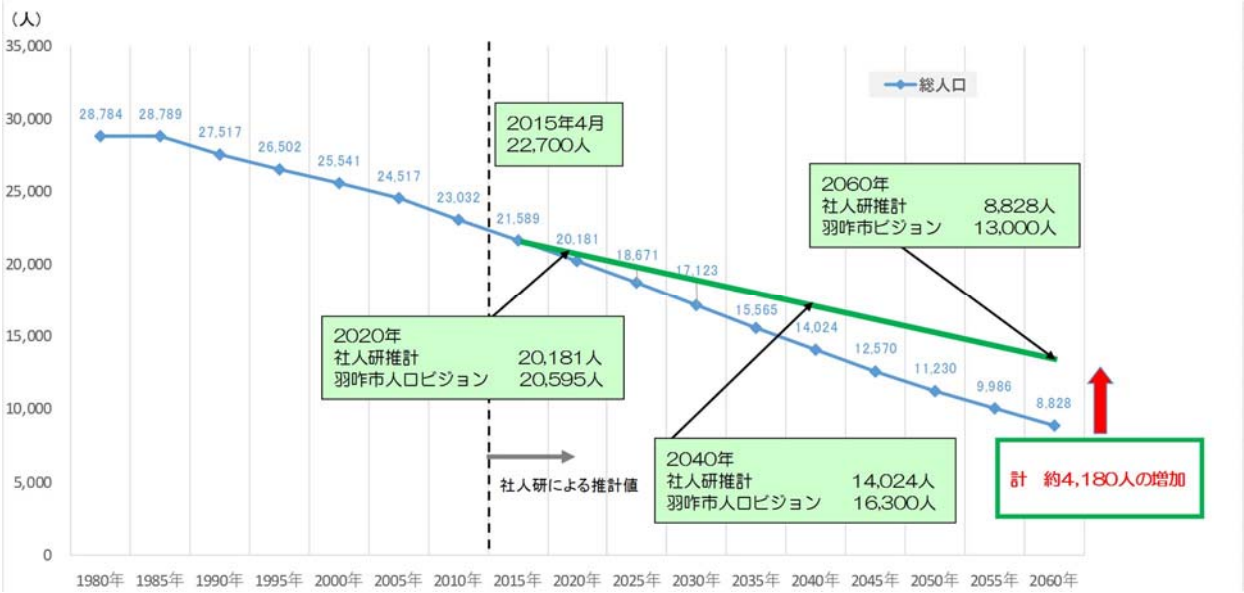
【将来都市構造図】



3－2 がんばる羽咋創生総合戦略

平成 27 年 10 月に策定され、平成 30 年 3 月に改定されたがんばる羽咋創生総合戦略では、（1）本市の特性・特徴（強み）を最大限に活かす、（2）本市における人口減少と地域経済の縮小の負のスパイラルを断ち切る、（3）本市におけるまち・ひと・しごとの創生と好循環を確立する、３つの基本的な考え方をもとに、人口問題と地域経済の縮小の克服に特化し、かつ即効性の高い事業を、まち・ひと・しごとの創生と好循環で実施することとされている。

【羽咋市人口ビジョンの人口推移と推計】



また、「羽咋における安定した雇用と魅力あるしごとを創出する」、「羽咋への新しいひとの流れをつくる」とした市の基本目標に対する基本的施策として、羽咋駅周辺整備による「まちなか」の賑わい創出が掲げられているほか、子育て・教育、住環境整備、空き家等利活用、公共施設の整備、防災、賑わい創出等、それぞれの分野で施策が掲げられている。（本構想に関係しうる基本的方向、基本的施策を次ページに赤囲み）

羽咋駅周辺整備による効果を定量的に表す重要業績評価指標（KPI）として、羽咋駅乗降者数が定められており、基準値となる 47 万人／年（2014 年度）からの５年間で 49 万人／年（2019 年度）増加させることを目標としている。

基本目標と基本的方向・基本的施策

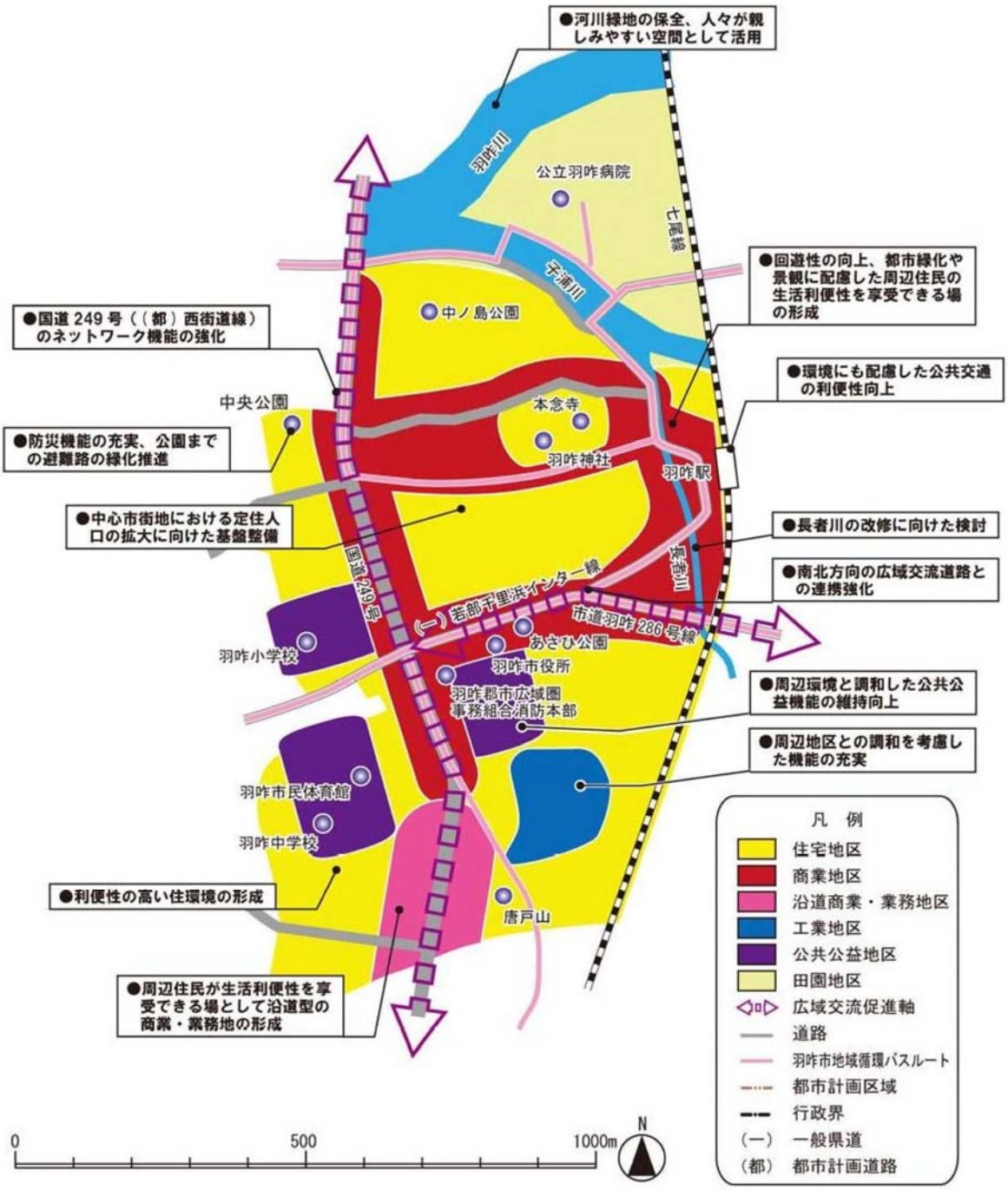
国の政策の基本目標	羽咋市の基本目標	基本的方向／基本的施策
地方における安定した雇用を創出する	**1.羽咋における安定した雇用と魅力あるしごとを創出する** **～「雇用の質」を重視した産業の創出～**	**(1)地域資源を活用した農業の振興と６次産業化** ①『自然栽培』を中心とした農業の成長産業化 ②有害鳥獣（イノシシ等）を活用した商品の開発・流通促進 ③新規就農者に対する総合的な支援 **(2)観光交流拠点を核とした雇用の創出** ①『道の駅のと千里浜』を核とした観光交流拠点施設の整備推進と地場産品市場の拡大 ②羽咋駅周辺整備による「まちなか」の賑わい創出 **(3)企業立地や誘致、基幹産業・起業家支援による地域活力の創造** ①継続した企業立地・誘致の推進 ②基幹産業の育成と支援 ③起業・創業支援の強化 ④多様な就労支援 **(4)地域経済の好循環に向けた総合的取組の推進** ①『地域商社』機能の推進による地域ビジネスの創造と成長 ②地域中核企業、大学等との連携による新産業・新事業の創出
地方への新しいひとの流れをつくる	**2.羽咋への新しいひとの流れをつくる** **～有用な人材の積極的な確保、定着と還流～**	**(1)地方移住の推進** ①移住総合相談窓口による地方移住支援 **(2)羽咋らしい観光地域づくり** ①観光、歴史文化、スポーツ等の活性化等を通じた交流人口の拡大 ②周遊滞在型観光の推進 ③魅力あふれる観光情報の発信
若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	**3.若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる** **～安心して子どもを産み育てられる環境の整備～**	**(1)出会いから結婚までの総合的な支援の充実** ①結婚を希望する若者への支援 **(2)子ども・子育て支援の継続・充実** ①妊娠・出産・子育ての経済的負担の軽減と支援 ②出産・子育てしやすい環境の整備 ③子育てと仕事の両立支援、女性の活躍の場の創出 **(3)『３あい～学びあい・鍛えあい・育ちあい～』の推進による学力・教育力の向上と充実** ①学びやすい学校施設と設備の維持 ②次代に対応するための学習能力の向上 ③きめ細やかな教育・学習機会の充実
時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	**4.時代に合った持続可能な地域をつくり、地域と地域が連携する** **～生活の素晴らしさ、豊かさを実感できる地域社会の維持と構築～**	**(1)住まいの整備・再生、安価な宅地供給の促進** ①住環境の整備推進 ②空き家・空き地等の利活用と既存住宅の性能維持の支援 **(2)既存施設の効果的な維持管理の促進** ①公共施設の長寿命化と計画的整備 **(3)地域で安全・安心に暮らせるまちづくりの推進** ①地域における減災・防災体制の充実 ②地域包括ケアシステムの構築と推進 ③健康寿命の延伸による「生涯活躍のまち」の構築 **(4)生活利便性の向上と生活環境の保全** ①都市機能の集積と市街地の賑わい創出 ②「地域における足」となる循環型交通の確保 ③再生可能エネルギー・省エネルギーの利活用と環境保全の推進 **(5)コミュニティ活性化と地域の未来を担う人材の育成** ①地域活力の維持と協働のまちづくりの推進 ②「羽咋」の未来を担う人材の育成と支援の充実 **(6)「ふるさと」支援と交流の促進** ①「ふるさと応援団」等による都市部との交流と共創 **(7)地域連携、広域連携の推進による経済・生活圏の形成** ①近隣自治体、能登地域、広域地域等との連携・協力

3－3 羽咋市都市計画マスタープラン

平成 25 年３月に策定された羽咋市都市計画マスタープランでは、羽咋駅や商店街周辺は、市民や観光客などが交流する市の顔として、商業・業務施設、都市機能の集積により、商店街の活性化や賑わいと魅力ある都市空間を創出し、まちなか居住の促進を図る拠点として、中心都市拠点に位置付けられている。

また、地域別構想における地域区分では、中央部中心地域に属しており、「羽咋市の顔として、賑わいと魅力にあふれ、安心で快適な中心市街地の創造」が将来目標に定められている。

【地域方針図】

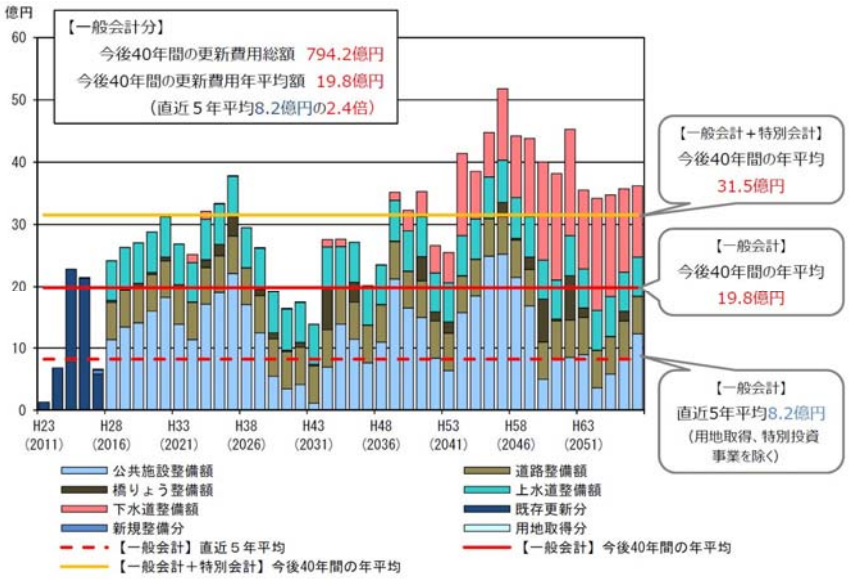


3－4 羽咋市公共施設等総合管理計画

平成 29 年３月に策定された羽咋市公共施設等総合管理計画は、羽咋市が保有する公共建築物及びインフラ資産（道路、橋りょう、公園、上・下水道）に対して、今後の維持管理・修繕等の基本的な方針を示している。

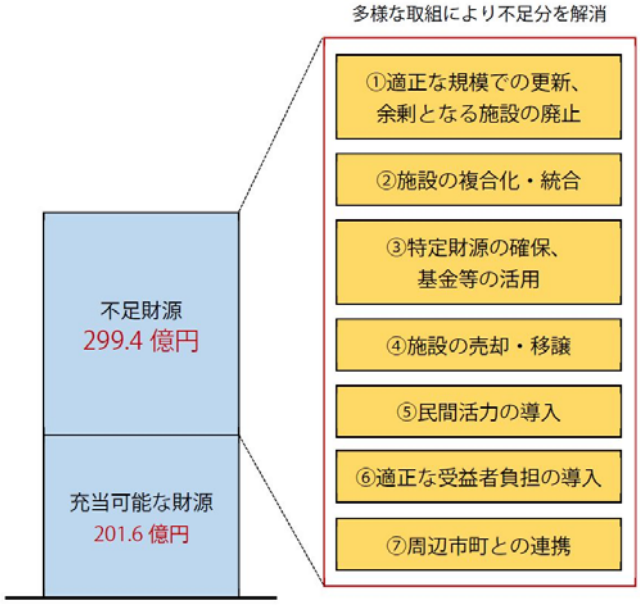
羽咋市が保有する公共建築物及びインフラ資産を合わせた更新費用は、今後 40 年間で 1,260.9 億円（年平均 31.5 億円）が必要と試算され、市の財政状況を勘案すると財源不足が想定される。（一般会計ベース：直近５年平均 8.2 億円の 2.4 倍）

【公共建築物等の更新費用試算（今後 40 年間）】



このため、羽咋市では、財源不足（不足財源 299.4 億円／年間 7.49 億円）の解消を目標に、下図に示す多様な取り組みを推進することとしている。

【財源不足を補うための多様な取り組み】



第4章　羽咋駅周辺整備に対する住民等の意向

4－1　アンケート調査

（1）　調査概要

羽咋駅周辺に関して、住民や商業者の現状及び意向を把握するため、以下の通りアンケート調査を実施した。調査概要は以下に示す通りである。

アンケート実施概要

項　目	市民アンケート	商業者アンケート
対象	市内全域の 16 歳以上対象 （地区別層化無作為）	市内 6 商店街（会）
配布・回収	配布数　1,000 通 回収数　285 通 回収率　28.5 %	配布数　179 通 回収数　87 通 回収率　48.6 %
実施日	配布日　6 月 18 日（月） 回収締切日　7 月 2 日（月）	左同
アンケート内容	**【属性】** 性別／年齢／居住歴／居住地 **【駅周辺の利用】** 利用頻度／利用目的／駅周辺への移動手段／利用しない理由 **【余暇の過ごし方】** 余暇を過ごす場所／交通手段／よく訪れる場所 **【羽咋駅周辺地区の整備について】** 整備の必要性／必要な機能 自由記入	**【属性】** 加盟商店街／業態／業種／従業員数／経営者年齢／経営年数／後継者／店舗の所有状況／来店で多い客層／来店で多い性別 **【お店について】** 経営上の問題／経営方針 **【羽咋駅周辺地区の整備について】** 整備の必要性／必要な機能／整備への協力 自由記入

市民アンケート　地区別回収率

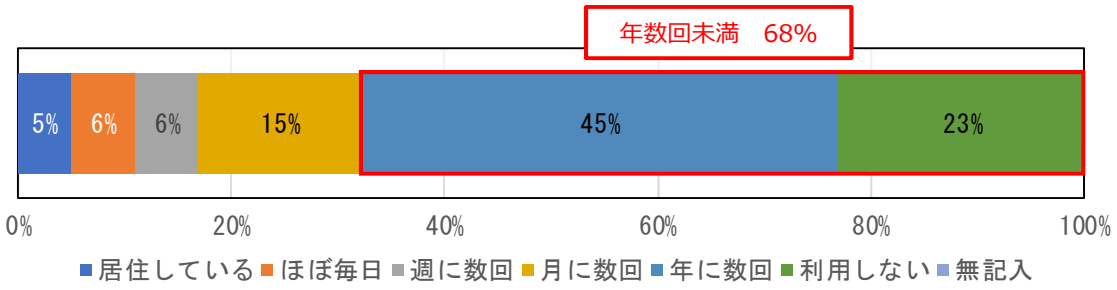
項　目	配布数	回収数	回答率
羽咋地区	310	80	26%
千里浜地区	120	37	31%
粟ノ保地区	95	31	33%
富永地区	95	22	23%
邑知地区	135	44	33%
余喜地区	75	16	21%
鹿島路地区	25	7	28%
越路野地区	50	13	26%
一ノ宮地区	60	18	30%
上甘田地区	35	5	14%
無記名	－	12	－
合　計	**1,000**	**285**	**29%**

（２） 主な結果

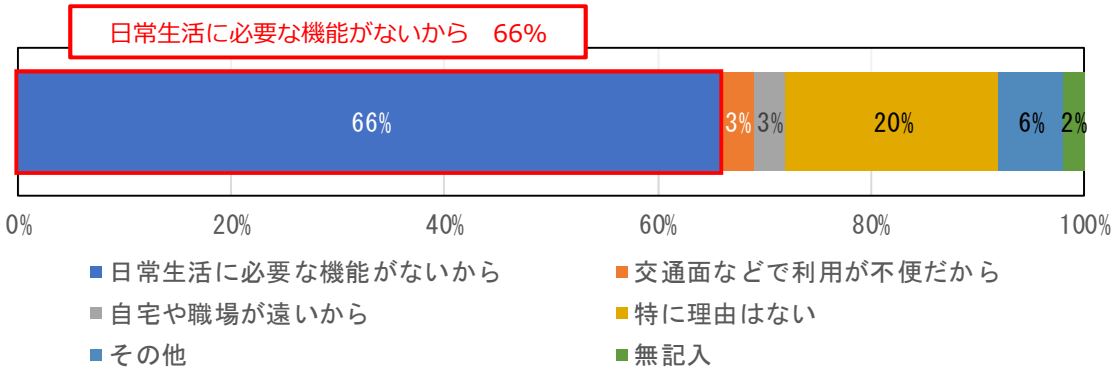
１）駅周辺の利用状況

駅や駅周辺の利用頻度は「年に数回」及び「利用しない」と回答した人が約７割を占めており、日常生活に必要な機能がないことが大きな理由となっている。

【市民アンケート　利用頻度】



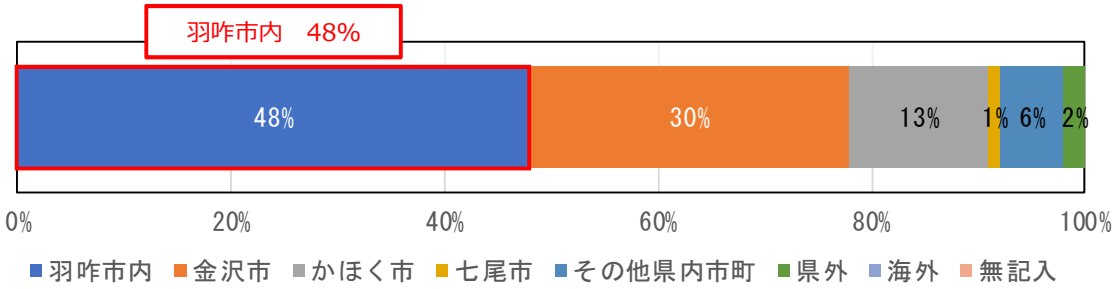
【市民アンケート　利用しない理由】



２）余暇を過ごす場所

余暇を過ごす場所は半数以上が羽咋市外と回答しており、市内には余暇を過ごす場所が不足していることがうかがえる。

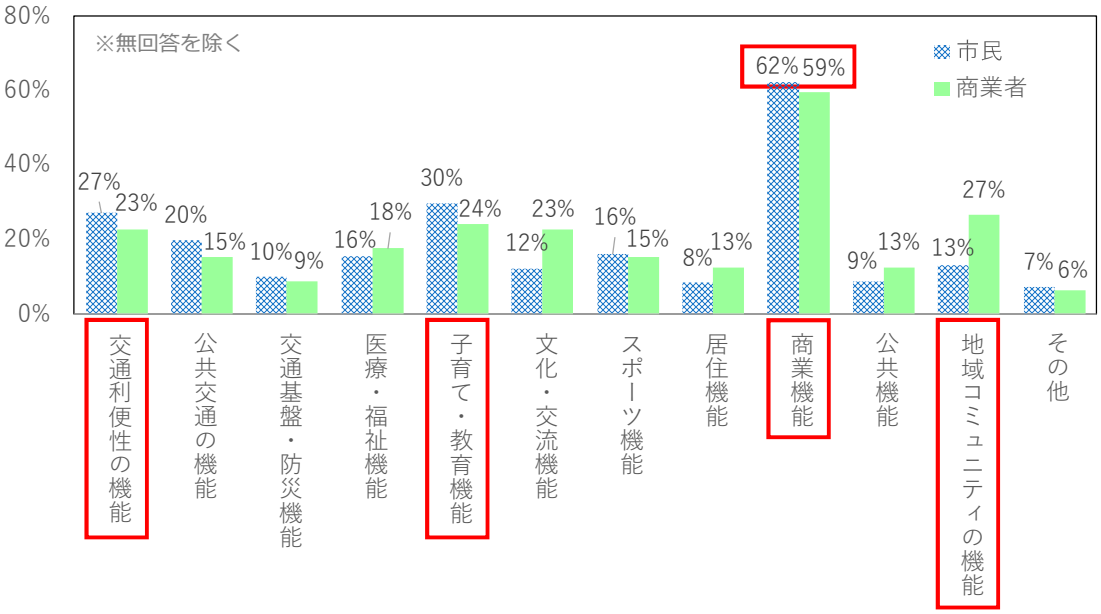
【市民アンケート　余暇を過ごす場所】



３）必要と思われる機能

市民アンケート・商業者アンケートともに、駅周辺地区に商業機能の強化が必要と思う人が多い結果であり、その他、交通利便性の機能、子育て・教育機能、地域コミュニティの機能などが比較的多数の人が必要と思う結果である。

【市民・商業者アンケート　羽咋駅周辺地区に必要と思われる機能強化】



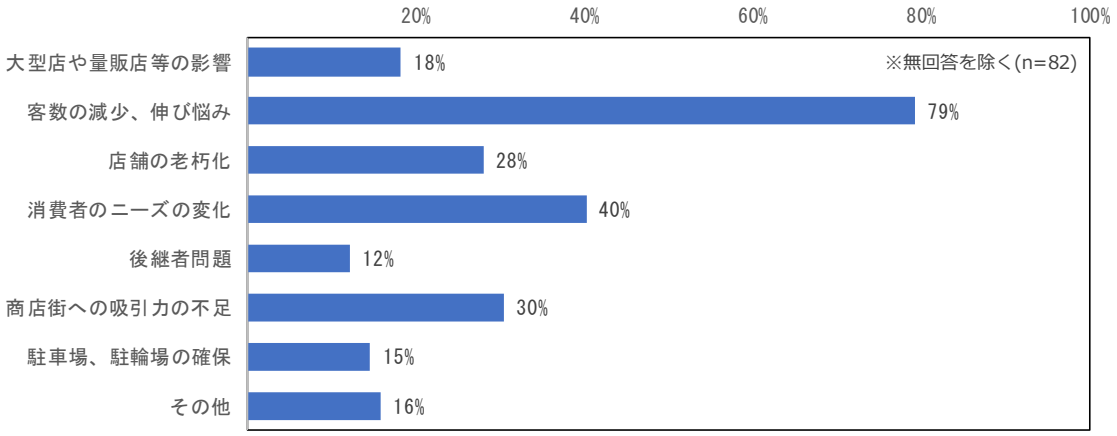
市民・商業者アンケート　羽咋駅周辺地区に必要と思われる機能（主な意見）

機能	主な意見
交通利便性機能	駐車場整備、駅前と駅東のアクセス向上、幹線までの道路整備、駅と地域を結ぶ交通
子育て・教育機能	公園・広場、雨でも遊べる屋内施設、子どもの学び場、保育施設・学童、図書館
商業機能	商業複合施設、飲食店、買物場所、コンビニ、レジャー施設付複合施設
地域コミュニティ機能	地域の人たちが集う場所、多世代交流施設、高齢者が集まる場所

４）経営上の問題

経営上の問題点として、「客数の減少、伸び悩み」を挙げる声が最も多く、「消費者のニーズの変化」や「商店街への吸引力の不足」、「店舗の老朽化」を問題視する声も比較的多い。

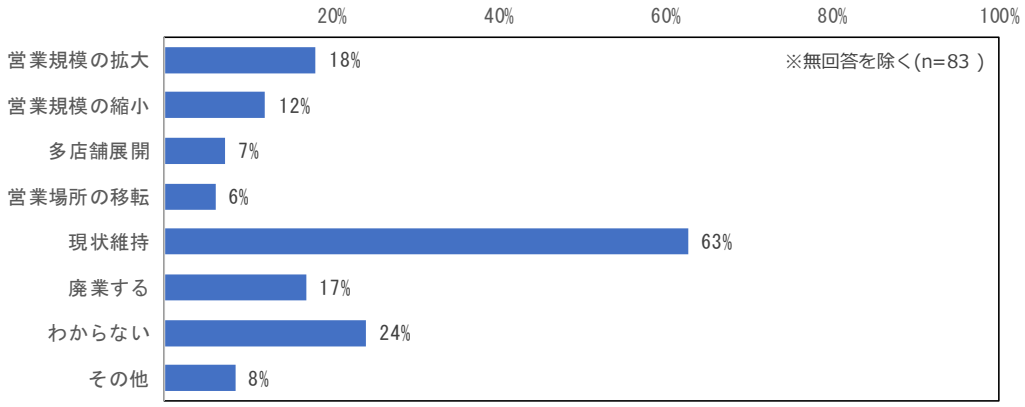
【商業者アンケート　経営上の問題】



５）今後の経営方針

今後の経営方針としては「現状維持」との回答が約６割と最も多く、問題点があっても改善に向けた行動に踏み切れない状況がうかがえる。

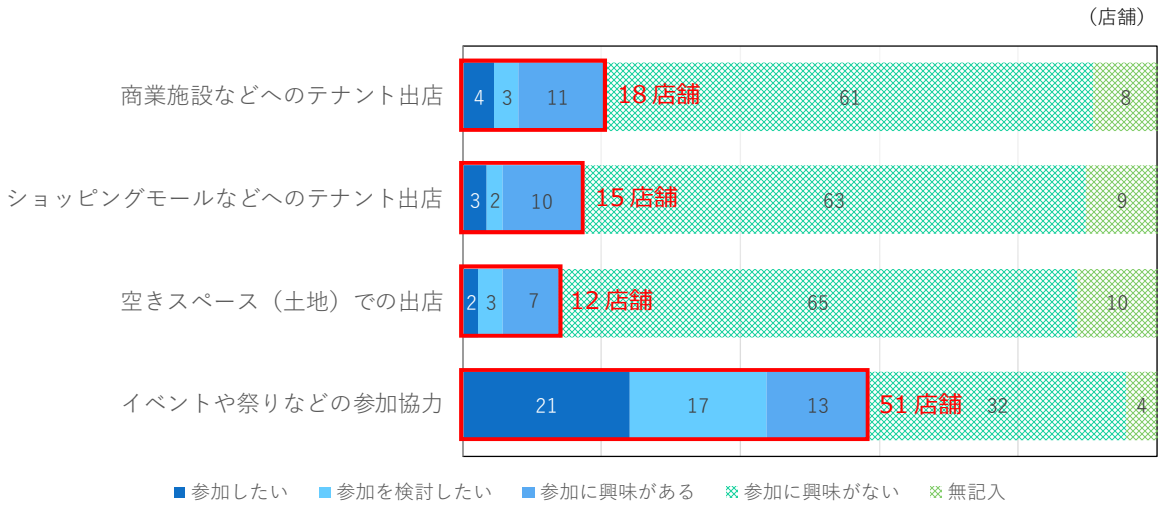
【商業者アンケート　今後の経営方針】



６）出店やイベントへの意向

一定程度の出店意向やイベント等の参加意欲はある。

【商業者アンケート　出店】



4－2 住民意見交換会

（1）実施概要

アンケート調査と合わせて、住民の声をより詳細に把握すべく、住民参加の意見交換会においてヒアリングを実施した。

意見交換会実施概要

日　程	対　象	参加者
7月30日（月）	川原町町会、駅前通り商店街	14名
8月2日（木）	周辺町会（東川原町、御坊山町、旭町）	12名
8月9日（木）	羽咋地区町会長連合会（11町会長）	11名
8月21日（火）	商工会、商店会連合会	11名
8月30日（木）	羽咋青年会議所、市青年団協議会	9名
9月6日（木）	羽咋ロータリークラブ	14名

（2） 主な意見

項目	内容
基本構想	・将来を見据えた計画づくり ・減少する人口規模や住む人に合わせた構想を作るべき ・市全体のまちづくりの一部として策定 ・時間をかけて構想を策定する必要がある ・ターゲットを定める ・住民との意見交換の場づくり（若い世代の意見） ・羽咋駅東西の連携、人の流れを作る ・交通結節点としてのインフラ活用すべき ・空き家対策が必要 ・駅前広場や周辺商店街の駐車場が不足
マルシェ跡地利活用	・ターゲットや規模を定める ・空き家の活用、出入口の重要性 ・公民館、コミュニティ施設、多目的施設がよい ・専門学校や大学などの教育施設がよい ・能登地域にはない医療や介護、福祉施設がよい ・防災拠点、活用できる公園よい ・需要面から大規模な商業（大型店）での活性化は難しい ・安全・安心（アスベスト、看板）への要望 ・官民連携などの工夫が必要
(都)川原町線・長者川	・河川改修・道路整備の要望 ・親水空間整備による活性化が必要 ・安全・安心（水害）への要望

4－3 住民説明会

（1）実施概要

作成された基本構想（案）の内容を説明する住民説明会を下記内容で実施した。

説明会実施概要

日　程	対　象	参加者
1 月 21 日（月）	周辺町会（川原町、駅前通り商店街、東川原町、御坊山町、旭町）	14 名
1 月 22 日（火）	羽咋地区町会長連合会	4 名
1 月 24 日（木）	商工会、商店会連合会、青年会議所、青年団協議会	25 名

（2）主な意見

項目	内容
基本構想	・事業スケジュールを具体的にすることが大切 ・人口減少抑制に対しての商工業の発展の重要性（雇用創出目的） ・羽咋駅東西の動線についての検討を ・若者を呼び込む方法についての検討を ・外国人向けの雇用創出や観光対応等の検討を ・若者の意見を積極的に反映してほしい
整備方針及び 整備イメージ	マルシェ跡地活用
	・北側の用地買収の見通しについての質問 ・解体範囲の確認 ・集約する公共施設についての質問 ・津波などの災害にも配慮した計画にしたほうが良い ・商業施設整備の場合、旧マルシェと同じ結果にならないか心配 ・中高生や、30 代、40 代をターゲットに絞って事業を考えないといけない ・無駄を省いた構想を描いてほしい ・公民館機能整備も検討してほしい ・財政を勘案して補助金等を最大限活用してほしい ・地域の人が利用しやすい施設を計画してほしい ・市外からの集客が見込める施設整備を考えてほしい ・イルミネーション等の装飾はきれいであるので参考にしてほしい
	河川周辺整備
	・早期の改修についての要望 ・改修範囲の確認 ・改修に合わせて観光客向けの機能整備も行っては？

4－4 パブリックコメント

（1）実施概要

作成された基本構想（案）の内容に対して、広く市民意見を反映するため、下記内容にてパブリックコメントを実施した。

パブリックコメント実施概要

項　目	内　容
目　的	基本構想（案）について市民意見を反映するため
公表資料	羽咋駅周辺整備基本構想 概要版（案）
意見提出対象者	市内在住者、市内事務所等勤務者、市内事務所等所有者、市内学校通学者
閲覧箇所	市役所ホームページ、市役所地域整備課窓口、市内公民館（11 箇所）
意見募集期間	平成 31 年 1 月 19 日（土）～平成 31 年 2 月 19 日（火）
意見募集方法	電子メール、郵便、FAX、直接持参
結果公表方法	閲覧箇所と同様の場で公表
結果公表期間	平成 31 年 3 月 6 日（水）～平成 31 年 3 月 31 日（日）

（2）意見募集結果概要

意見提出者：８人、提出件数：32 件

（３）意見募集結果概要

項　目	意見内容　※( )は２件以上の意見数	件数
１.構想の基本方針		
（１）方針１	・避難所機能の対象と想定人数について	１件
（２）方針２	・子育て世代の定住について(２) ・案内所の整備について	３件
（３）方針３	・公共施設の集約について(２) ・るんるんバスの見直し等公共交通の充実	３件
（４）その他	・楽しい街とするアイディアについて	１件
２.整備方針及び整備イメージ		
（１）マルシェ跡地活用		
交流機能	・子育て支援について(２) ・図書館機能の充実について(３) ・健康づくりと歩いて暮らせるコンパクトな街について ・ウォーキングコースの設置について ・観光案内所の整備及び活性化について ・住民の暮らしを守る視点について	９件
広場機能	・最新防災設備を備えた安心の拠点について ・何もない広場整備について	２件
商業機能	・駅前ホテル、レストラン整備について	１件
その他	・羽咋にしかないものの整備について ・複合施設の整備について ・高低差がある地形の利活用について	３件
（２）長者川河川改修		
	・水辺空間について(２)	２件
３.今後のスケジュール・方向性		
	・住民等への意見徴収と事業の迅速さについて ・駅周辺の交通利便性向上について ・既成市街地への波及の範囲について ・周辺土地利用の向上について ・市の課題解決について	５件
４.マルシェ跡地利活用方策比較検討(案)		
	・賑わいを創出する民間について ・公園機能の利用対象者について	２件

第5章　地区の課題

5－1　課題抽出の流れ

（1）時代の潮流

①人口減少の抑制・少子高齢化社会の対応
②安全・安心なまちづくりへの対応
③交流人口の拡大への対応
④持続可能なまちづくり
⑤都市機能の集積
⑥「新しい公共」による市民ニーズへの対応
⑦ライフスタイルの多様化

（2）現況特性

①人口

【市と駅周辺地区の人口の現状】
・市の人口は平成元年からの 30 年で 23%減少し、特に駅周辺地区では 40%と大幅に減少している。
・市全体の老年人口（65 歳以上）は約 30 年間で 20%増加し、37%が高齢者となっているが、駅周辺地区では 42%が高齢者であり、高齢化が進行している。

【市人口の将来展望】
・市の人口は、今後 40 年で 60%が減少し、現在の 22,000 人から 8,800 人に減少すると推定される。
・人口の長期的展望（2060 年）として、社人研準拠推計値より約 4,000 人多い 13,000 人を目指し、若い世代のためのまちづくりや持続可能な地域づくりを推進

②駅周辺地区の状況

【土地利用の状況】
・駅西既成市街地を中心に空き家や駐車場などの低未利用地が多い。
・駅西既成市街地の商店が減少し賑わいが喪失している。
・マルシェ跡地は、駅前一等地でありながら長年未利用であり、建物が廃墟化するなど駅前のイメージダウンとなっている。
・駅東口へのアクセス路が狭く分かりにくい。
・駅東周辺地区は耕作放棄地などの未利用地が点在している。

【都市施設の状況】
・既成市街地内にはすれ違いが困難な狭い道路が存在する。
・ＪＲ羽咋駅の電車利用者は近年増加しており、バス乗客数は近年減少傾向にある。
・駅前道路の交通量は約 2,000 台/12ｈである。
・都市計画道路川原町線、長者川河川改修が未整備である。

【自然・文化的特性】
・羽咋神社、本念寺など歴史的な寺社仏閣が存在し、川渡し神事等の伝統文化が今もなお受け継がれている。

（3）市のこれまでの取り組みや目標

①取り組み
【羽咋駅周辺整備】
・駅西広場整備（歩道・アーケード・トイレ整備）
・駅東広場整備（ロータリー・駐車場・駐輪場整備）
・駅東分譲地整備

②まちづくりの基本目標・基本方針
【がんばる羽咋創生総合戦略・基本目標及び基本的施策】
●羽咋における安定した雇用と魅力あるしごとを創出する
・羽咋駅周辺整備による「まちなか」の賑わい創出
・継続した企業立地・誘致の推進
●羽咋への新しいひとの流れをつくる
・地方移住の支援
・羽咋らしい観光地域づくり
●若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える
・出産・子育てしやすい環境の整備
・きめ細やかな教育・学習機会の充実
●時代に合った持続可能な地域をつくり、地域と地域が連携する
・住環境の整備推進、空き家・空き地等の利活用の推進
・公共施設の長寿命化と計画的整備
・地域における減災・防災体制の充実
・健康寿命の延伸による「生涯活躍のまち」の構築
・都市機能の集積と市街地の賑わい創出
・「地域における足」となる循環型交通の確保
・コミュニティの活性化と協働のまちづくりの推進

【都市計画マスタープラン】
《中央部中心地域の将来目標及び基本方針》
羽咋市の顔として、賑わいと魅力にあふれ、安心で快適な中心市街地の創造
●羽咋市の顔としての賑わいと魅力あふれるまちなかの再生
●中心市街地の利便性を高める道路交通ネットワークづくり
●公署等の公共公益施設が集積した、住民の暮らしを守る拠点づくり

（4）羽咋駅周辺整備に対する主な意見（アンケート・意見交換会）

基本構想	・将来を見据えた身の丈に合うまちづくり ・まちづくりの方針（ターゲット）を定める ・若い世代との意見交換の場づくり ・住民参加のまちづくり
駅周辺利用状況	・駅を利用しない市民の約 7 割が駅周辺に必要な機能がないと感じており、利用率が低い。
余暇や休日を過ごす場所	・半数以上の市民が「買い物」「観光・文化施設」「公園」など、市外で過ごしている。 ・訪れる理由は、「買い物や飲食を楽しめる」「店がまとまり様々な用事を済ませられる」など商業に関連する理由が多い。
駅周辺に必要と思われる機能	・商業…複合施設、飲食店などの整備 ・地域コミュニティ…地域活動の拠点や多世代が集える公民館などの多目的利用が可能な施設整備 ・子育て支援…公園・広場・雨でも遊べる屋内広場の整備 ・教育…学習スペースや図書館、大学等の教育施設の整備 ・交通利便性…駐車場の整備 ・福祉…能登地域にはない医療や介護施設の整備 ・防災…防災拠点となる公園の整備 ・交通基盤…交通結節点としてのインフラ整備
マルシェ跡地	・ターゲットや規模を定める ・若い世代のニーズや需要に合った必要な機能の誘導 ・安全・安心の確保（老朽空き家・アスベスト） ・周辺空き家の活用、出入口の重要性 ・官民連携などの工夫が必要
(都)川原町線、長者川	・沿道活用による道路整備 ・安全・安心な河川改修 ・親水空間整備による活性化
商業者	・客数の減少、消費者ニーズの変化を認識 ・一定程度の出店意向やイベント等の参加意欲がある
年齢別	・通勤通学以外は、年齢が低いほど駅周辺を利用しない ・年齢が高くなるにつれ余暇を市内で過ごす人が多い

（5）羽咋駅周辺地区の課題

《課題１》　安全・安心に暮らせるまちづくり

マルシェ跡地などの低未利用地の増加や近年の豪雨等により、長者川改修に関心が高く、駅周辺地区において安全・安心の確保が求められている。

《課題２》　まちなかの都市機能の充実や住環境の維持・向上による賑わいづくり

空き家や空き地が増加し、かつての活気が失われている。本市の玄関口として魅力的で賑わいのあるまちづくり、さらに世代間交流など多様なニーズに対応した都市機能の充実が求められている。

《課題３》　少子高齢化や人口減少社会に対応した将来を見据えたまちづくり

今後の人口減少、消費生活等の状況変化に対応できる都市機能の集積と地域特性に合った土地利用が求められている。

5－2　羽咋駅周辺地区の課題

前項の課題抽出の流れに従うと、羽咋駅周辺地区の課題を大きく３つに大別できる。以下に抽出された課題を示す。

《課題１》
安全・安心に暮らせるまちづくり

・中心市街地においては空き家や空き地が増加しており、防災面、防犯面の双方から安心・安全なまちづくりの対応が求められている。

・マルシェ跡地は、平成 14 年に閉鎖し空き店舗となってから 16 年が経過し、荒廃化が進んでいる。安全面や防犯面が懸念されており早急に跡地利活用の検討を行う必要がある。

・近年の豪雨災害などにより、住民の長者川改修に対しての関心が高く、防災機能の向上が求められている。

《課題２》
まちなかの都市機能の充実や住環境の維持・向上による賑わいづくり

・商店街の店舗の減少、空き家や空き地が増加しており、かつての活気が失われている。

・上位関連計画においても「まちなか」での賑わいの創出が掲げられており、本市の玄関口として魅力的で賑わいのあるまちづくり、さらに世代間交流などライフスタイルが多様化する現代において市民ニーズに対応した都市機能の充実が求められている。

《課題３》
少子高齢化や人口減少社会に対応した将来を見据えたまちづくり

・今後の人口減少を見据えた持続可能な都市の実現に向けて、消費生活等の状況変化に対応できる都市機能（公共公益施設等）の集積と、羽咋市の「まちなか」として地域特性に合った土地利用が求められている。

第6章　基本構想・整備方針

6－1　基本コンセプト及び方針

地区の現状、課題等を踏まえ、羽咋駅周辺整備にあたって「市民とともに　つくる・楽しむ・集う　羽咋の玄関口らしい地域交流による賑わい創出」を基本コンセプトとし、「都市防災の機能強化と災害時の避難空間整備」、「子育て世代を中心に多世代が集える場の創出」、「将来を見据えた都市機能集積の段階的な推進」の３つを方針とする。

《基本コンセプト》

●市民とともに　つくる・楽しむ・集う
羽咋の玄関口らしい地域交流による賑わい創出

安全
安心
つくる

《方針１》　都市防災の機能強化と災害時の避難空間整備

安全・安心に暮らせるよう防災・防犯機能の向上を図るまちづくりを進める。

●安全・安心なインフラ整備
地震や水害等の都市を脅かす災害を防ぎ、安心な生活環境を構築するため、河川等の災害危険箇所の防災対策を進める。

●まちなかの一時避難所の確保
住民の安全・安心のため、まちなかにおいての災害時一時避難所を確保する。

●住民参加による安全・安心な地域づくり
住民の自主的な防犯・防災活動を推進するため、市や関係各組織が地域コミュニティと連携して、防犯・防災に取り組み、住民参加型の安全・安心な地域づくりを図る。

●周辺住環境の整備推進
歩道や照明灯を備えた安全な道路空間づくりを推進し、羽咋駅周辺住民の生活利便性の向上を目指す。

●老朽空き家への対応
倒壊の恐れや衛生上の問題がある老朽化した空き家は、周辺住民や悪影響を与えないよう羽咋市空家等対策計画に基づき、適切に対処することで、安全で安心な暮らしを確保する。

賑わい　楽しむ

《方針２》　子育て世代を中心に多世代が集える場の創出

多世代が集う魅力あふれるまちづくりを進め、まちなかに賑わいやくつろぎの創出を図る。

●まちなかの賑わいと魅力の創出

市の鉄道の玄関口である羽咋駅を中心として、賑わいの核となる拠点施設の整備・充実に取り組むとともに、まちなかの魅力創出を図る。

●子育て支援拡充と交流の場の充実

支援を必要とする多くの子育て世代が利用できるよう子育て支援の拡充に努め、また子どもから高齢者まで多世代が集える場の充実を目指す。

●多世代交流の場・機会の創出

市の中心部として、老若男女様々な世代が交流できる場を設けると共に、まちなかでくつろげる環境を創出する。

●多様な教育や学習機会の充実

幅広い世代が生涯にわたり余暇時間を充実して過ごせるよう、多様な教育や生涯学習の充実を図る。

●民間や住民と連携した賑わいの創出

行政のみならず民間活力を活用するとともに地域住民とも連携することによって、賑わいの創出を図る。

●市民の日常生活を支える利便性の向上を図る機能の整備促進

羽咋駅の交通機能や日常生活を行う上でその支えとなる商業機能、福祉や交流機能など、利便性の向上を図る機能の整備を促進する。

●観光客に魅力のある機能の整備促進

市の玄関口である羽咋駅を利用する観光客等が、まちなかに訪れたくなる魅力のある機能の整備促進を図る。

コンパクトシティ　集う

《方針３》　将来を見据えた都市機能集積の段階的な推進

将来を見据えた少子高齢化や人口減少社会に対応したコンパクトなまちづくりを進める。

●都市機能の集積と公共交通等の連携

将来まで持続可能なまちづくりを推進するため、行政や商業、教育、観光などの都市機能の集積を図るとともに、鉄道やバスの公共交通と自家用車とが連携した円滑な移動形成を図る。

●歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり

まちなかにおいて地域住民が歩いて暮らすことのできるコンパクトなまちづくりを推進する。

●まちなかでの暮らしを支える機能の充実

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、高齢者を支える仕組みづくりや、高齢者が主体となりともに支え合って予防活動を取り組めるよう、活動の拡充に努める。

●健康寿命延伸の推進

生涯を通じた健康づくりの実現に向けて、生活習慣病の予防や健康寿命延伸に向けての施策を推進する。

●移住定住を促す若者や子育て世代に魅力ある機能の充実

都市コミュニティの維持と若年層のニーズに対応するために、UIJ ターン※を促す世代に魅力ある機能の充実を図る。

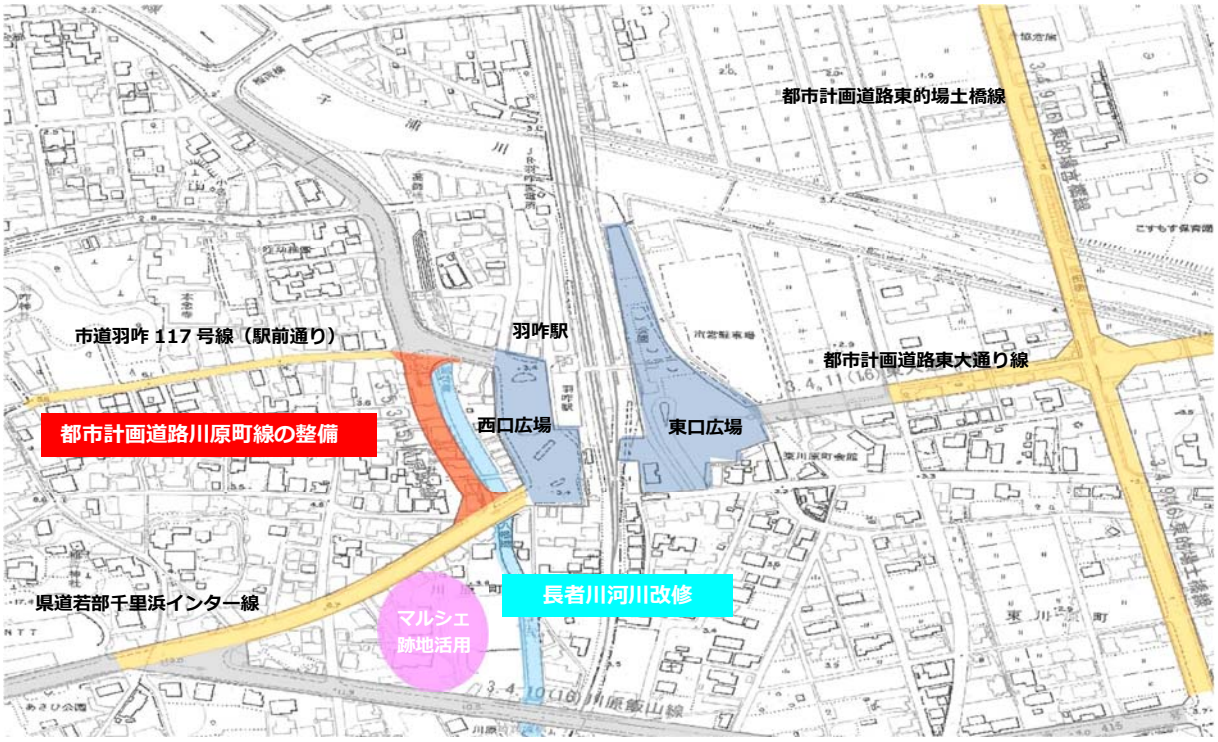
※UIJ ターン…Ｕターンは地方から都市へ移住した後、再び地方へ移住すること。Ｉターンとは地方から都市または都市から地方へ移住すること。Ｊターンは地方から大規模な都市へ移住した後、地方に近い地方都市へ移住すること。

羽咋駅周辺地区の課題から見た将来必要とされる都市機能、および構想のイメージと周辺都市機能イメージを以下に示す。

羽咋駅周辺地区の課題から見た将来必要とされる都市機能

① 密集するまちなかの災害時の避難空間確保が求められている。
・長年放置されたままの **マルシェ跡地活用** ・親水空間を考慮した安全・安心な **長者川の河川改修** ・防災機能を兼ね備えた **くつろげる空間づくり** ・避難所機能を兼ね備えた **防災機能の整備**
② 賑わいと魅力が失われ、活気やコミュニティが衰退している。
・**羽咋駅周辺整備**による「まちなか」の賑わいと魅力の創出 ・多世代が集える支え合い活動の場となる**交流機能の整備** ・**子育てしやすい環境**と**学習機能**を備えた整備 ・まちなかの賑わいと魅力を創出する**商業機能**の整備 ・沿道の活性化や利便性を図る**都市計画道路の整備** ・**観光情報発信**の充実 ・鉄道の玄関口として誰もが**くつろげる景観の整備**
③ 都市機能の集積
・将来を見据えた交通ネットワークや歩いて暮らせる商業施設、住宅施設などの**都市機能の整備** ・生活習慣病予防や健康寿命延伸のための**健康増進機能の整備** ・老朽化した公共施設の集積により、**「子育て支援機能」「教育機能」「健康増進機能」「防災機能」「地域コミュニティ機能」の都市機能の充実**を図り、賑わいを創出

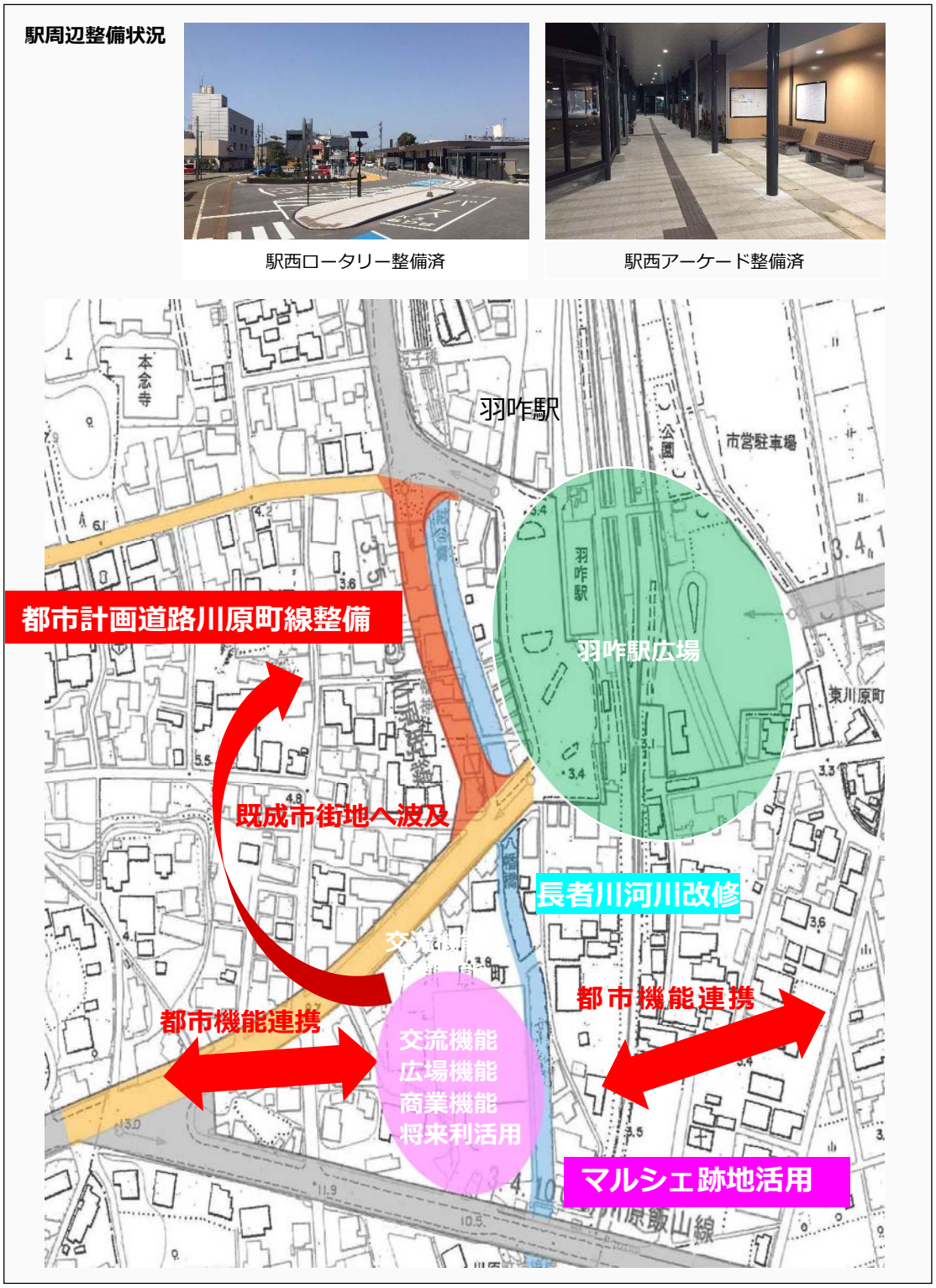
【構想のイメージと周辺都市機能】



6－2 整備方針

「基本コンセプト及び方針」から、羽咋駅周辺の整備として、「マルシェ跡地活用」、「長者川河川改修」、「都市計画道路川原町線整備」の３本柱として整備方針を記載する。なお、これらについて一体的な整備をすることにより、既存の都市機能や近年整備した羽咋駅広場（羽咋駅）等と機能連携を図り、既成市街地へ整備効果を波及させることに取り組むものとする。

【整備方針図】



（１） マルシェ跡地活用

マルシェ跡地の整備に求められる機能としては、「交流機能」、「広場機能」、「商業機能」のほか、都市機能集約用地として確保する「将来利活用」の合計４つとする。

①交流機能

整備方針

- 市内の子どもたちが誰でも利用できる施設として、子育て支援機能を集積し、子育て支援の拡充と交流の場の充実を図る。
- 図書コーナーや学習スペースなどを備えた、多様な学習機会を得られる教育機能の充実を図る。
- 多世代が集える地域コミュニティ機能の拠点とし、賑わいをもたらす。
- 健康寿命の増進を図る施設として、健康増進機能を集積し、健康なまちづくりを推進する。
- 将来を見据え歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを目指し、都市機能を集積する。

整備イメージ

屋内広場・学習スペース・運動スペース・多目的ルーム等

②広場機能

整備方針

- まちなかの災害時避難空間に防災機能を持たせ、安全安心なまちづくりを推進する。
- 地域コミュニティの場やイベント広場として整備し賑わいをもたらす。
- 敷地内の駐車場活用を主として、駅周辺利用者のための駐車場として活用、利便性を図る。

整備イメージ

イベント広場、緑地、駐車場等

③商業機能

整備方針

- 敷地内の一部は意欲ある商業者の用地として活用し、まちの賑わいの創出を図る。
- 商業施設等の誘致や企業立地支援制度等の検討
- 観光情報の発信機能の充実

整備イメージ

生活用品、軽食、カフェ等

④将来利活用ゾーン

整備方針

- 今後の高齢化社会に対応した、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを目指すため都市機能集積用地として確保
- 地域コミュニティの機能や住宅施設、商業施設等の機能配置など都市機能の集積を検討
- 商業施設等の誘致や企業立地支援制度の検討

整備イメージ

公共施設、商業施設等

マルシェ跡地イメージ図

屋内広場

コミュニティ空間による賑わいイメージ

（２） 長者川河川改修・都市計画道路川原町線整備

長者川の河川改修及びそれに並行する都市計画道路川原町線の整備方針について、以下に示す。また、マルシェ跡地活用と合わせての駅西既成市街地の波及を行う整備についての方針も合わせて示す。

長者川河川改修・都市計画道路川原町線整備

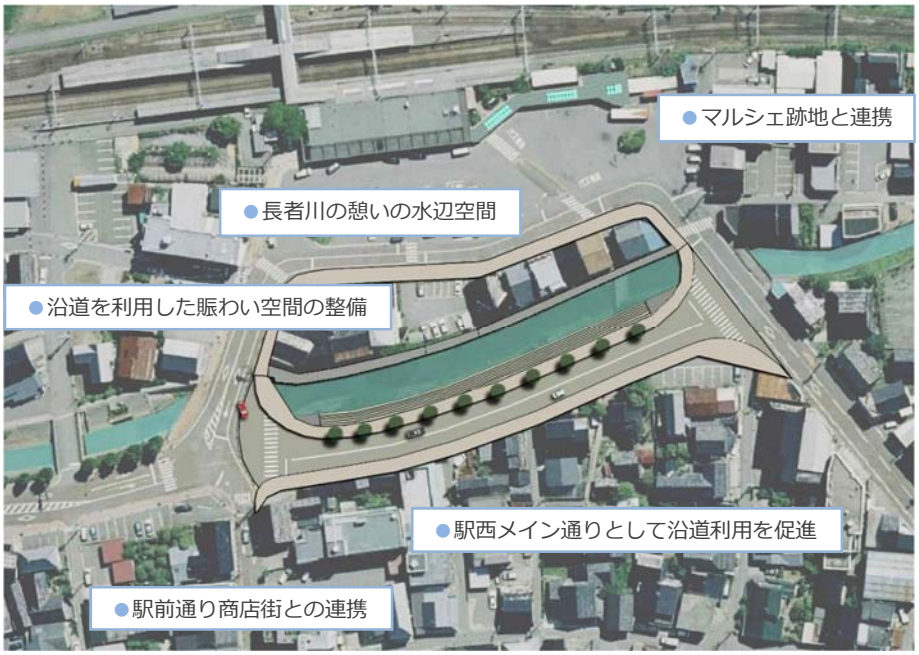
整備方針

- 住民には、ゲリラ豪雨等による浸水災害を心配する声が多く、早急に河川改修整備が必要である。災害予防や安全安心な暮らしの確保が図られるよう事業要望を進める。
- 長者川河川改修では、安心安全な川づくりを進めるとともに、駅前通りやマルシェ跡地に近接することから、河川の水辺の良さを活かした“憩いの水辺空間づくり”を検討する。
- 都市計画道路川原町線は、マルシェ跡地と連携し、河川改修と一体的に整備し、駅西のメイン通りとして商業者などの沿道活用を促されるよう整備を進め、まちなかの活性化をめざす。
- 八幡橋上流の長者川改修は、マルシェ跡地の利活用と一体的な整備を行い、親水空間の設置など、市民の憩いの場となるよう進める。

安全安心な河川（長者川下流）

道路の利便性と沿道活用

【長者川・都市計画道路川原町線の一体的整備イメージ】



6－3 マルシェ跡地利活用方策

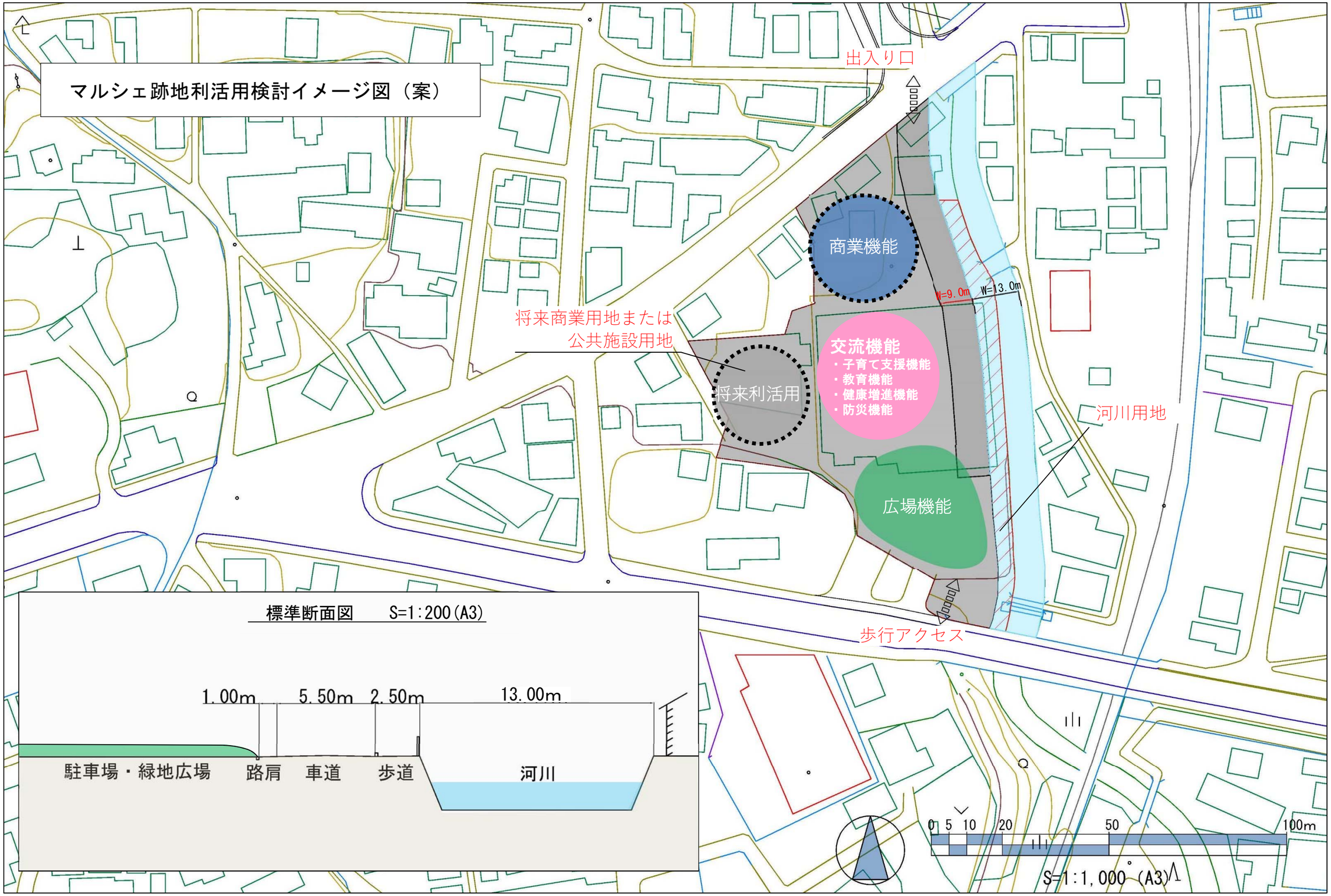
マルシェ跡地に求められる機能を元に、主体となる機能を５つのパターンにわけ、整備のメリット・デメリットを明らかにしたうえで、妥当性、効果・効率、実現可能性について、比較検討評価を行った。

凡例：◎メリットが大きい　○メリットがある

マルシェ跡地　利活用方策　比較検討案

		【パターン１】 交流機能	【パターン２】 交流機能(商業機能複合)	【パターン３】 公園機能	【パターン４】 公園機能(商業機能複合)	【パターン５】 商業機能
事業主体		公民連携（市主体）	公民連携（民間主体）	公民連携（市主体）	公民連携	民間
導入機能イメージ		 子育て支援機能　教育機能 健康増進機能　広場機能 防災機能　商業機能	 子育て支援機能　教育機能 健康増進機能　広場機能 防災機能　商業機能	 子育て支援機能　広場機能 防災機能　商業機能	 子育て支援機能　広場機能 防災機能　商業機能	 オガールプラザプロジェクト HP 商業機能 食品スーパー、ホテル等
概要		・子育て世代を中心に多世代が集えるコミュニティの拠点とする。 ・まちの賑わい空間を創出する。	・子育て世代を中心に多世代が集えるコミュニティの拠点とする。 ・まちの賑わい空間を創出する。	・防災機能を備えた公園を整備し、安全安心のまちづくりを進める。 ・まちの賑わい空間を創出する。	・防災機能を備えた公園を整備し、安全安心のまちづくりを進める。 ・まちの賑わい空間を創出する。	・商業機能の整備によりまちの賑わい空間を創出する。
メリット・デメリット	住民ニーズ	◎子育て支援機能＋教育機能＋地域コミュニティ機能＋商業機能の必要性が高い	◎子育て支援機能＋教育機能＋地域コミュニティ機能＋商業機能の必要性が高い	○子育て支援機能+商業機能の必要性が高い	○子育て支援機能＋商業機能の必要性が高い	○商業機能の必要性が高い
	都市構造	◎コンパクトシティ化に寄与	◎コンパクトシティ化に寄与	○既存都市公園の集約の検討が必要	○既存都市公園の集約の検討が必要	◎コンパクトシティ化に寄与する
	事業手法	◎公共の政策意図を反映できる	◎民間のノウハウにより賑わい創出が可能	◎公共の政策意図を反映できる	◎民間のノウハウにより賑わい創出が可能	◎民間のノウハウにより賑わい創出が可能
	概算事業費	初期投資　約９億円 （建物解体、建物・広場整備等）	初期投資　約 11 億円 （建物解体、建物・広場整備等）	初期投資　約４億円 （建物解体、広場整備等）	初期投資　約５億円 （建物解体、広場整備等）	初期投資　約３億円 （建物解体等）
		公共施設の集約により維持管理費削減	公共施設の集約により維持管理費削減	公共施設の集約により維持管理費削減	維持管理費削減可能	－
財源		都市再構築事業、過疎債	都市機能立地支援事業	都市再生事業、減災防災債	都市再生事業、減災防災債	－
事業手法及び官民の役割		直営、定期借地方式など	ＰＦＩ、定期借地方式など	直営、定期借地方式など	ＰＦＩ、定期借地方式など	貸付け、定期借地方式など
		市　：既存建物解体 公共機能整備 民間：商業機能整備	市　：既存建物解体 民間資金の一部を支援 民間：公共機能、商業機能整備	市　：既存建物解体 公共機能整備 民間：商業機能整備	市　：既存建物解体 公共機能整備（民間整備可） 民間：商業機能整備 公園管理運営	市　：既存建物解体 民間：商業機能整備

マルシェ跡地利活用検討イメージ図（案）



第7章　羽咋駅周辺整備の実現に向けて

7－1　整備スケジュール

羽咋駅周辺基本構想を具体化するためのスケジュールを以下に示す。

短期

1年目（2018年度）

羽咋駅周辺基本構想

- マルシェ跡地取得
- 住民等アンケートの実施
- 住民等意見交換
- 基本構想の策定
- 河川改修・都市計画道路県協議

2年目（2019年度）

基本計画

- 地元協議
- 現地測量調査
- 交流機能・商業機能の検討
- 商業機能の誘致
- 既成市街地との連携、先行運用の検討
- 事業手法の検討
- 河川改修・都市計画道路県協議

3年目（2020年度）

事業着手

- 解体工事
- 基本設計・実施設計
- 商業機能の誘致
- 河川改修・都市計画道路県協議

中・長期

整備着手

- マルシェ跡地の整備
- 商業機能の誘致
- 河川改修・都市計画道路計画の着手

事業推進

- 公共施設の集積
- 商業機能の誘致
- 河川改修・都市計画道路整備
- 駅前通りの整備

7－2　構想の具体化に向けての方向性

羽咋駅周辺基本構想を具体化に向けての方向性を、以下に３点示す。

①　意向把握と合意形成に基づく事業化の推進

●民間事業者の意向を把握し、十分な合意形成の上で事業を推進する。

●民間事業者の意向・ニーズ把握
・民間が主体的に参加してもらえる体制づくり

●事業化に向けた関係者間の意見調整
・事業化にあたっては、民間事業者との十分な合意形成を図る。

②　官民連携と適切な役割

●道路や河川の都市基盤整備については、官が主体的に行い、都市機能の充実に資する施設整備は、民間活力を視野に官民が連携し、適切な役割のもとに、それぞれ取り組みを進める。

●都市基盤施設の計画的な整備
・都市計画道路川原町線や長者川の整備を計画的に推進する。

●支援方策の検討
・民間事業者への支援のあり方について検討する。

●まちづくり検討の組織づくり
・民間事業者を交えた将来のまちづくりを検討するための組織づくりについて検討する。

③　多様な事業手法による段階的な整備

●土地利用区分に応じた事業手法を選定する。

●多様な事業手法の検討
・事業化にあたっては、エリアの特性を踏まえ、スムーズな事業展開が可能となるよう、多様な事業手法を検討する。また、確実な事業推進が図れる優位な財源を確保する。

●緊密で柔軟な事業間調整
・複数の事業のスケジュール調整など、円滑な事業推進を図るための体制づくりに努める。

7－3 駅周辺整備を推進するための課題

駅周辺整備を推進するための課題を以下に示す。

① 駅周辺の交通利便性の向上

・県との連携による地域を結ぶ幹線道路のネットワーク整備
・生活道路における歩行者等の安全確保
・羽咋駅に接続する道路の整備
・公共交通ネットワークの充実

② 駅周辺地区と市内の都市機能との連携

・駅は「都市の交流核」とし重要な役割を持っている事から都市全体として駅の役割を整理
・車の玄関口である千里浜インター周辺と鉄道の玄関口である羽咋駅周辺との連携
・マルシェ跡地を地域交流拠点とした既成市街地への波及

③ 周辺土地利用の向上

・マルシェ跡地を有効活用するための県道沿いの用地取得の検討
・市道羽咋 286 号線（旧国道 415 号）からのアクセスの検討
・高低差のある土地利用の検討

7－4 地域活性化による成功事例

地域活性化による成功事例及びそこから抽出された地域活性化のキーワードを以下に示す。

地域活性化による成功事例
① 【ケースA】 （人口３万４千人）
・「消費を目的としない人を集める」というコンセプトにより多様な官民連携手法により官民複合施設を整備し、取得後 10 年以上放置された町所有地である駅前に年間 80 万人以上が訪れるようになり賑わいを創出している。
② 【ケースB】 （人口 11 万人）
・市所有地（百貨店跡地）において、官民連携による子育て支援施設やカフェ等との複合施設を整備しまちの賑わいを創出している。
③ 【ケースC】 （人口６万人）
・「家族が絵になる図書館」をコンセプトとしたカフェ等との複合施設を整備し、指定管理者制度の活用により民間のノウハウを最大限に活用し活性化を図っている。
④ 【ケース D】 （人口２万人）
・まちなかの空き地であった病院跡地に、観光客だけではなく市民も集まる「食」の賑わいを拠点としたマルシェ（市場）を整備し、中心市街地の賑わい復活させ、周辺商店街への波及効果が大きく表れている。 ・また、民間主導で地域住民、商業者のコンセンサスを得ながら事業を進め、行政が一等地を軽減賃料で賃貸するなど、官民一体となった体制で事業を推進。

地域活性化のキーワード
A．多様な官民連携手法 B．官民複合施設 C．公有地活用 D．民間主導 E．民間のノウハウ活用 F．住民・商業者のコンセンサス G．子育て世代が集う施設 H．まちの賑わい I．中心市街地の賑わい J．軽食やカフェ等との複合施設 K．「食」の賑わいを拠点